



横浜 2019年度

教師海外研修報告書

研修国：ブラジル連邦共和国



独立行政法人国際協力機構
横浜センター（JICA横浜）

目 次

教師海外研修について

教師海外研修とは	4
教師海外研修の流れ	5
海外研修国の概要	6
参加者一覧	7
海外研修日程	8
参加者の訪問先所感	9

実践報告

●小学校(2名)

名原 道子 (横浜市立三保小学校)

「みんなで よりよい人間関係を 築くために」・・・18

兵頭 絵梨 (大和市立上和田小学校)

「わかば いいね! ~みつめてみよう じぶんのこと~」・・・29

●中学校(3名)

田井 さゆみ (横浜市立六ツ川中学校)

「『すべての人』のために、『わたし』にできることは?」・・・36

谷川 大介 (鎌倉市立御成中学校)

「『みんなが安心して過ごせる世の中』にするにはどうすればいいか考えよう」・・・46

深澤 歩未 (甲州市立塩山中学校)

「多文化共生とわたし~教室は世界の縮図~」・・・51

●高校(2名)

菊川 正太 (神奈川県立神奈川総合産業高等学校)

「海外にルーツをもつ人との交流を意識して・・・身近な人たちに興味を広げよう」
・・・62

田中 豪 (神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校)

「自己開示(自分オープン)」・・・75

※この報告書に掲載されている意見は、本研修参加者によるものであり、JICA を代表するものではありません。
※参加者の所属等は、2019 年度のものであります。

教師海外研修とは

1. 教師海外研修の目的

本研修は、国際理解教育や開発教育に熱心に取り組んでいる神奈川県・山梨県の教員や教育委員会指導主事等の皆さんを対象に、実際に開発途上国を訪問することで、開発途上国が置かれている現状や国際協力の現場、開発途上国と日本との関係に対する理解を深め、その成果を、学校現場等での授業実践等を通じて、次代を担う児童・生徒の教育に役立ててもらうことを目的としています。研修参加後は、JICA 国内機関と協力し、教育現場で開発教育を推進する中核となるような人材となってもらうことを期待しています。

2. 研修概要

本研修は、開発途上国の社会・教育事情や開発途上国で行われている様々な国際協力活動の現場視察（海外研修）と、海外研修の前後に行う国内研修（事前／事後）の2つのプログラムから成っています。国内研修（事前）では、海外研修への準備としてワークショップ体験、素材収集の方法・教材研究等を学びます。国内研修（事後）では、他の研修参加者と協働して開発教育の教材づくりに挑戦します。その成果（教材）を駆使しての実践授業を通じて、同じ関心をもつ多くの教員の方々と貴重な経験と成果を共有することを目指します。全ての研修のしめくくりとして、実践授業の報告発表会を実施します。

3. 応募資格

神奈川県と山梨県の学校現場で国際理解教育・開発教育に取り組んでいる、または関心を持ち、国内・海外の研修および報告会の全日程に参加可能な教員等で、所属長の推薦が得られる方。

4. 海外研修期間

2019年8月4日（日）～8月17日（土）

研修の流れ

国内事前研修

第1回～第3回 @ JICA 横浜

【日程】 事前①：2019年6月22日（土）
事前②：2019年6月29日（土） ※開発教育教員セミナー（基礎編）
事前③：2019年7月13日（土）～7月14日（日）

【内容】 ・本研修概要・派遣国・視察先の説明
・海外研修準備（渡航手続き、健康・安全管理、素材収集の方法）
・前回参加教員との交流
・開発教育のワークショップの体験
・教材研究の方法

海外研修 @ブラジル連邦共和国

【日程】 2019年8月4日（日）～8月17日（土）
【内容】 開発途上国の現場体験、教材研究のための素材収集

国内事後研修

第1回 @ JICA 横浜 【日程】 2019年8月24日（土）
【内容】 ・研修先で得た素材の整理
・教材・授業案・ワークショップの作成

第2回 @ JICA 横浜 【日程】 2019年9月14日（土）
【内容】 教材・授業案・ワークショップの作成

第3回 @ 各所属先 【日程】 2019年9月～12月
【内容】 各所属先における授業実践等

第4回 @ JICA 横浜 【日程】 2020年1月11日（土）～2020年1月12日
※開発教育教員セミナー（応用編）
【内容】 ・開発教育のワークショップの体験
・参考事例発表
・教材研究の方法

最終報告会@ JICA 横浜 【日程】 2020年2月16日（日）よこはま国際フォーラム2020
【内容】 実践授業の報告発表会

海外研修国の概要

参加者一覧

(五十音順)



ブラジル連邦共和国 (Federative Republic of Brazil)

首都：ブラジリア
面積：851.2万平方キロメートル（日本の22.5倍）
人口：約2億947万人（2018年、世銀）
民族：欧州系（約48%）、アフリカ系（約8%）、東洋系（約1.1%）、混血（約43%）、先住民（約0.4%）
 （ブラジル地理統計院、2010年）

言語：ポルトガル語
宗教：カトリック約65%、プロテスタント約22%、無宗教8%（ブラジル地理統計院、2010年）
政体：連邦共和制（大統領制）
主要産業：製造業、鉱業（鉄鉱石他）、農牧業（砂糖、オレンジ、コーヒー、大豆他）
GDP(名目)：1兆8,686億米ドル（2018年、世銀）
一人当たりのGNI：9,140米ドル（2018年、世銀）
経済成長率：2.3%（2013年）、0.1%（2014年）、-3.8%（2015年）、-3.6%（2016年）、
 1.0%（2017年）、1.1%（2018年）（実質GDP、ブラジル地理統計院）

通貨：リアル
日本の援助実績：(1) 有償資金協力（2011年度まで、E/Nベース） 499.96億円
 (2) 無償資金協力（2017年度、E/Nベース） 1.22億円
 (3) 技術協力（2017年度、実績ベース） 16.34億円

主要援助国（2016年：支出総額、単位：百万ドル、OECD / DAC）
 : (1) ドイツ（314.46）
 (2) フランス（125.69）
 (3) ノルウェー（111.55）
 (4) 日本（84.86）
 (5) 英国（72.74）

在留邦人数：50,205名（2018年10月現在）
 （外務省 在留邦人数調査統計）（日系人総数推定 約200万人）
在日ブラジル人数：201,865人（2018年法務省在留外国人統計）

（外務省ホームページより）

氏名	参加形態	学校名	学年 / 担当教科
菊川 正太	参加者	神奈川県立神奈川総合産業高等学校	1年 理科、総合産業科
田井 さゆみ	参加者	横浜市立六ツ川中学校	3年 理科
田中 豪	参加者	神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校	2年 理科
谷川 大介	参加者	鎌倉市立御成中学校	1年 社会科
名原 道子	参加者	横浜市立三保小学校	6年
兵頭 絵梨	参加者	大和市立上和田小学校	特別支援学級
深澤 歩未	参加者	甲州市立塩山中学校	3年 社会科
中野 貴之	同行者	JICA横浜	
穂坂 ちひろ	同行者	JICA山梨デスク	
福田 訓久	同行者	株式会社メディア総合研究所	



日系人とのラジオ体操後の一枚 [撮影：2019年度教師海外研修同行者]

海外研修日程

日時		行程	宿泊地
8/4	日	午前 羽田空港発	サンパウロ
		午後 サンパウログアルーリオス空港着	
8/5	月	午前 ブラジル事務所で安全・事業ブリーフィング リベルダーヂ散策	サンパウロ
		午後 【ボランティア交流】サンパウロ市内活動ボランティアの活動説明と意見交換会 ふりかえり会 ブラジル事務所、帰国研修員との交流	
8/6	火	午前 Colégio Brasília de São Paulo (私立学校)	サンパウロ
		午後 日本移民資料館見学 ふりかえり会	
8/7	水	午前 【草の根技協】PIPA、日伯病院訪問	サンパウロ
		午後 【ボランティア活動現場視察】サウジ学園 ふりかえり会	
8/8	木	午前 【草の根技協】カサパーバ公立小学校3年生の環境野外授業視察	サンパウロ
		午後 【草の根技協】LFC- Casa de Cirilo - Caçapava ふりかえり会	
8/9	金	午前 【ボランティア活動視察】ピオネイロ学園	サンパウロ
		午後 中間ふりかえり会	
8/10	土	午前 サンパウロからマナウスへ移動	マナウス
		午後 【技術協力(科学技術)】INPA(国立アマゾン研究所)フィールドミュージアム事業視察、 INPA内 森林散策 西部アマゾン日伯協会主催盆踊りイベント ふりかえり会	
8/11	日	午後 マナウス市営市場、アマゾン川視察 ふりかえり会	マナウス
8/12	月	午前 【ボランティア活動視察】Escola Estadual de Tempo Integral Professor Djlma da Cunha Bastista (公立学校)	サンパウロ
		午後 マナウスからサンパウロへ移動 ふりかえり会	
8/13	火	午前 【技術協力】地域警察活動(ロータリー交番)、サンパウロ市営市場視察	サンミゲル アルカンジョ
		午後 サンミゲルアルカンジョ市へ移動 【ボランティア活動視察】コロニアピニャールの日本語学校視察、学校の先生方、役員と の意見交換会 ピニャール地域のみなさまとの交流会 ホームステイ	
8/14	水	午前 農園視察 サンパウロへ移動	サンパウロ
		午後 マルピアラ学園(Colegio Marupiará) ふりかえり会	
8/15	木	午前 事務所周辺視察	機内泊
		午後 ブラジル事務所で研修報告会	
8/16	金	午前 サンパウログアルーリオス空港発	機内泊
8/17	土	午後 成田空港着	

参加者の訪問先所感

1日目：8月4日(日)

菊川 正太

日本からブラジルまでの移動中および現地到着

大きな期待とちょっとした不安を抱え、羽田を深夜に出発、ドバイ経由で計30時間かけてサンパウロへ。かつての移民は60日かけて海を渡った。規模は違えど、期待と不安を抱えての渡伯に、少しだけ移民者の気持ちに近づけた気がした。

サンパウロ到着後はブラジルの壮大さを体感。車線の多さや路面の荒さ、加えて現地の方々の運転の荒さに驚きを隠せなかった。早速日本との大きなギャップを感じる事となった。

滞在先のニッケイパレスホテルで円卓を囲んでの夕飯。一人一種で注文するも、量の多さに驚愕。そうだ！中華はシェアして食べることが前提だった！汗



これで一人前とは…

2日目：8月5日(月)

田井 さゆみ

① ブラジル事務所において安全・事業ブリーフィング

ブラジル事務所へご挨拶に伺った。私たちの研修のために、多くの準備をしてくださっていることを再確認し、感謝の気持ち、そして必ず全力で学ぼうという気持ちがより一層強くなった。

② リベルダーヂ散策

日系人の方々が築いてきた文化が地球の反対側のブラジルでしっかりと継承されていることに驚いた。また、事前研修で学んでいた『移民』の背景と結びつき、移民してきた方々の苦勞を少し理解できたように感じた。

③ ボランティアとの交流

ブラジルの子どもの現状について詳しく話を聞くことができ、今後の学校や施設訪問に向けての心構えにもなった。

④ 懇親会

夜は、帰国研修員やJICA関係者の方々が交流会を開催してくださった。いくら時間があっても足りないと感じてしまうほど、どなたから聞く話もとても興味深く、感銘を受けた。「なんとかしなきゃ！」という気持ちで活動することは、必ず繋がりを生み出すということを強く感じた。



事務所にて各自の研修目的を発表中



JICA研修員として日本に来た時の様子を聞いています

① Colégio Brasilia de São Paulo 校 視察

保育～高校までの私立一貫校を訪問した。施設や授業を見学するだけでなく、現地の生徒と直接交流をすることができた。その際、「日本の学校の当たり前」を伝えると、ブラジルの学校との違いにとっても驚いた様子であった。一人の生徒が言った“Difference is beautiful”に多文化共生のヒントがあると感じた。



高校生たちにインタビュー

② 日本移民資料館 見学

「真実を伝えたい」という想いでガイドをされている方のお話を聞きながら、移民についての理解を深めることができた。移民としての実体験のお話は、当時の移民の苦労や困難が、まるで自分のことのように感じられるものであった。厳しい状況の中でも懸命に生きようとする移民の歴史や想いに触れ、同行メンバーの心の中に、大きく、熱い何かが残った。



当時の生活について熱心に説明を聞いています



子どもたちにソーラン節を教えています

① 草の根技術協力 PIPA、SBC 病院訪問

PIPA では自閉症薬剤を一切使わない指導方針に感銘を受けた。その場限りの対応ではなく、長期的に考えた指導は教育にとっても大切であり、改めて指導を考えるきっかけになった。SBC 病院では緩和ケアを受けながら患者がその人らしい死を選択していく重要性を学んだ。

② Escola Saude 訪問

4か月～10歳の児童が通う学校で、日系社会青年海外協力隊(以下、NVJと表記)の活動を視察した。学園長は「10歳までに大切なことは覚えらる。」とおっしゃっていて、NVJや、他の先生方がきめ細やかな指導をしているのが印象的だった。



授業にお邪魔してご挨拶を



学校のみんで歓迎してくれました

① 草の根技術協力 カサパーバ公立小学校環境教育野外授業 見学

小学校の環境教育の実践が、学校だけではなく家庭、地域へと波及し、環境保全への理解や取り組みの向上へと繋がっていた。また、地元、島根県が協力していることは、感慨深かった。

② 草の根技術協力 ラー・ファビアーノ・デ・クリスト(LFC) 訪問

先生方のマニュアルにある「愛すること」を大切にしていることが、活動や子どもたちと先生たちのやり取りから感じられた。



折り紙で交流。上手に折れたかな…

① ボランティア活動視察 Colegio Pioneiro 校

学校のいたるところに日本を感じた。NJV は、日本語や日本の文化を担当している。「種まき的に日本を伝えている」とおっしゃっていたのがよくわかるような環境だった。校内を歩いていると「ブラジルの多文化共生」をテーマにしたと見てとれる子どもたちの作品が掲示してあった。ブラジルの地図に描かれた、様々な人種の人々や家族の「笑顔」が印象的だった。「見た目はちがうけど、みんなでブラジルをつくっている」というメッセージを感じ、学びの一つとなった。



高校生の机の上をパシャリッ。日本のキャラクターや日系祖先らしき写真も…

② 中間ふりかえり会

「軸となる What / Why を絞る・再確認する・深める」をねらいとして、それまでの振り返りで書き溜めた付箋を改めて読み、整理した。学んだこと(エモ)や疑問(モヤ)を分類ごとに分けていると、自分たちに共通するテーマや、次週に向けて各自が確認したいことなどが明確になった。振り返りの途中で、同行ファシリテーターがいくつかの活動やファシリテーション研修を行ってくださった。その内容もヒントとなり、チームの方向性がまとまったように感じた有意義な時間だった。



情報を整理しながらワークショップ案を作成中

① キャンピナス空港からマナウス空港へ移動

飛行機内で話したマナウス出身の男性は、ブラジルの魅力を「人種で分けずに全員で一体になれるところ」と話してくれた。まさに、多文化共生だと感じた。

サンパウロ～マナウス間の自然の移り変わりに注目した。アマゾンの熱帯林の先に地平線が見え、地球の青さや丸さに感動した。

② 技術協力 INPA(国立アマゾン研究所) フィールドミュージアム事業 視察

INPAを出た後、思わず周囲の鳥や植物に興味をひかれた。それは、案内してくれたヴィラさんの「自然の香りがするでしょう?」という一言や、科学の家で、視覚、聴覚、触覚を刺激する教材に出会い、五感を使ってアマゾンの自然を感じられた成果だと思った。



熱心に案内を聞いています。
マナティにも会えました!

③ 西部アマゾン日伯協会 盆踊りイベント参加

慰霊祭の中で何度も「残す」という言葉が挙がっていた。そのときは、なぜ日本文化を残す必要があるのかわからなかった。しかし盆踊りイベントに参加し、日系人、非日系人と関わる中で、90年前に日本に渡った人たちが大切にしていたから、このイベントが今も続いていると思うと、その人たちの思いを形として継承する必要があると感じた。



盆踊りの休憩中、500名ほどの参加者の前でソーラン節も披露させていただきました

マナウス アマゾン川視察

アマゾン川岸の市場は活気に満ちている。見たことのない魚や肉が、見たことのない姿、量で並んでいる。

小型船に乗り込むと世界最大の河川、アマゾン川の視察がスタート! アマゾン川に入り、ピンクイルカと共に泳ぐ貴重な体験。夢の「アマゾン川で平泳ぎ」も敢行。

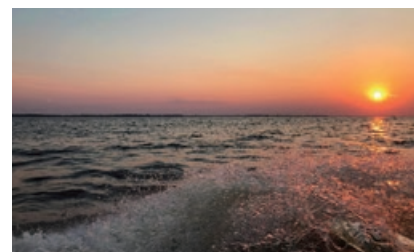
昼食を済ますとひとつの集落へ。先住民の文化に触れる。アリの食べ、伝統文化のダンスを観て、共に踊ることができた。

ピラニア釣りやピラルクのエサやりと一緒に大興奮。これぞアマゾンならではの体験!

アマゾン川に沈む夕日を眺めてアマゾン川視察の終わりを迎えた。改めてアマゾンの大自然、日本との植生や規模の違いを感じる一日となった。



市場の魚に圧倒されました



海のような広い川に沈む夕日

Escola Estadual de Tempo Integral Professor Djalma da Cunha Batista 校 訪問



子どもたちとの交流は
インタビューのチャンス!

マナウス市のバイリンガル学校を訪問した。ポルトガル語と日本語のバイリンガル学校と聞いたとき、なぜ日本語を学ぶのだろう?という疑問をもっていたこと、そして、私自身が日本語教育に携わっているということから、訪問前からとても興味を持っていた。

到着すると…なんと、子どもたちが、ブラジルの国旗と日本の国旗を掲げて出迎えてくれ、さらに、『君が代』と『世界に一つだけの花』を日本語で一息懸命に歌ってくれた。この素敵なサプライズには思わず涙が出てきた。

3年前からこの学校では、日本語が必修の科目になったこと、数学や理科の授業も日本語で行うということを知った。学校の周辺に、日系企業が増えてきており、日本語ができることが採用の条件となっているようだ。そこで、「日本語を

勉強するのはなぜだと思う?」と直接子どもたちに質問したところ、「将来に役立つから。」という答えが返ってきたこと、その声に周囲の子どもたちも大きく頷く様子に刺激を受けた。

こんなにも自分の将来のことをしっかりと考えることができているのに驚いたのと同時に、日々先生方が子どもたちの未来に向けて寄り添って考えているということが伝わってきた。



日本語の授業を見学中

① 技術協力 ローター交番 訪問

交番横の公園でラジオ体操に参加した。このラジオ体操は地域社会と警察と一緒に活動する取り組みの一つである。その後、日本の交番システムの普及活動について話を伺い、地域と密着して犯罪を未然に防いでいることや、地域で見守りあう大切さを学んだ。



早朝ラジオ体操で日本を思い出しました

② ボランティア視察 コロニアピニャールの日本語学校 視察

コロニアピニャールに移動して、日本語学校を訪問し、その後会館にて地域のみなさまとの交流会に参加した。日系一世から三世の方々のブラジル移住前の心境や、移住後の話をうかがい、たくさんの苦労があって今のブラジル国内の日系社会が成立していることを改めて実感した。



たくさんの地域のみなさまが
集まってくれた交流会

① コロニアピニャール農園 視察

コロニアピニャールに住んでいる人々の農園を視察させていただきました。様々な工夫をしてぶどうやびわを中心とした果実の生産に力を入れていた。びわの出荷準備は、たくさんの人々の手作業で行われていた。

また、図書館や道場を見学した。地球の反対側であっても、そこには確かに「日本」が残っていた。図書館にあった「言葉を忘れた民族はやがて其の活力を失う」という言葉の重みを感じた。



重みのある言葉です

② サンパウロ市内 Colégio Marupiara 校との交流

サンパウロに戻り、幼稚園～高校までの私立一貫校を訪問した。日本語教育に力を入れている学校で、日本語担当の先生がとても温かい方だったのが印象的であった。授業風景の見学や先生方との交流を行った。ブラジルのルーツを探るために移民のことを学んだり、読書を通して様々なことを学んだりするプロジェクトを行っているとのことであった。文化の違いをもったたくさんの生徒が共生しているが、その背景には「違いについて知りたい気持ち強い」ことがあるとのことだった。

現地の先生たちと
多文化共生について意見交換中

① 事務所周辺 視察

地下鉄に乗って移動した。行き交う人々の様子や街中を歩いてお店や街並みを見ることで、色々なことに気づくことができた。



電車の中で遭遇したブラジルの一面

② サンパウロ出張所にて研修報告会

ブラジルでたくさんのことを吸収したことがわかった。それをそれぞれメンバー1人ひとりがJICA ブラジル事務所にて報告を行った。また、ワークのアイデアをそれぞれ出し合った。

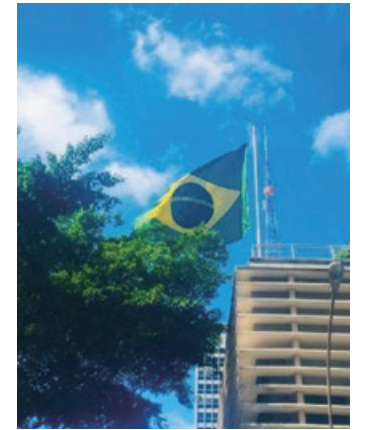


無事に報告会を終えました

サンパウロ発ドバイ着

機内で過ごす長い時間は、行きと同じく果てしないように感じた。やはり思い出すのは移民の方々のこと。45日～60日間の船上生活と比べれば、わたしたちの移動時間は短い。このような考え方も、今回の研修に参加してこそ得られたものだと思う。

最終日、青い空とブラジルの国旗が
見送ってくれたような気が...



ドバイ空港から成田空港へ

到着するとすぐに、帰りを待つ家族、ブラジルで無事を祈ってくれるホームステイ先の家族に連絡をした。大切にしたいものが増え、嬉しく感じた。仲間と離れるのは寂しいが、今後の研修でまた高めあうことを楽しみに解散した。



もうすぐ帰国。寂しさが漂う空港




2019年度教師海外研修参加者の実践授業の様子 [撮影：2019年度教師海外研修同行者]

実践授業報告

※この報告書に掲載されている写真は、教師海外研修参加者の責任の基に提供されたものを使用しています。
※参加者の先生、児童生徒さんの原文をいかして掲載しております。表記などにばらつきがありますが、ご了承ください。

みんなでよりよい人間関係を築くために

【実践者】

	氏名	名原 道子	学校名	横浜市立三保小学校
	担当教科等	小学校(全教科)	対象学年(人数)	6年 1組(34名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2019年11月(3時間)		

【実践概要】

【1】実践する教科・領域

特別活動 学級活動の内容(2)
日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全ーイ

【2】単元(活動)名

「よりよい人間関係の形成」

【3】授業テーマ(タイトル)と単元目標

授業テーマ: 「みんなでよりよい人間関係を築くために」

単元目標: 学級や学校の生活において互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲よくしたり信頼し合ったりして生活するために自分のできることを取り組もうとする。

【4】単元の評価規準例

- ①知識及び技能
 - ・活動のめあてに向かって取り組むことのよさを理解している。
 - ・よりよい生活を送るための意志決定の仕方を身につける。
- ②思考力、判断力、表現力等
 - ・自分の課題に気づき、解決方法を考えたり、友達の意見のよさを生かしたりしながら聞くことができる。
- ③学びに向かう力、人間性等
 - ・自分で意志決定した目標を大切にしてい取り組もうとする態度を養う。

【5】単元設定の理由・単元の意義(児童/生徒観、教材観、指導観)

【単元設定の理由】

本題材は、小学校学習指導要領特別活動の学級活動の内容(2)日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全ーイ「よりよい人間関係の形成」に基づいて設定したものである。クラス全体には、笑顔で明るい雰囲気があり、穏やかに仲良く協力して活動できる。しかし、学級目標に対してふり返り、達成できたこと、達成できていないことを話し合ったところ、「みんなで」協力できていない、あるいは、いつも仲の良い人ばかりと過ごしていたり、行動していたりしていることが課題としてあった。よって、学級や学校の生活において互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲よくしたり

信頼し合ったりして生活するためには、どうしたらよいかという内容にせまり、ワーク1で、実際に体験することを通して課題をさぐっていきたい。そして、ワーク2では、自分のことをオープンにすることを互いに経験することで、解決策を見つける手だての1つとしていきたい。

【単元の意義】

発達の段階に即した指導の重点としては、人間関係や健康安全、食育などに関する悩みの解消などを重視して指導する。特に、自己に合った実現可能な解決方法を決め、目標をもって粘り強く努力できるようにする。第6学年では最高学年としての自覚をもつことができるようにするとともに、中学校教育との接続に配慮して指導する。

【児童観】

本校は、児童数が現在千人近くの大規模校である。また、年々様々な国にルーツをもつ児童が増加傾向にある。学年では、ルーマニア、マレーシア、中国などにルーツをもつ児童や保護者の転勤等で海外に移住していた、あるいはシンガポール、ブラジルなどに移住している児童もいる。同じ学校内に様々なルーツをもつ人がいて、一緒に生活している。しかし、自分と違う文化、慣習、考え方の違いや見た目なども含め、「違い」に直面した時に、互いに否定的になったり、受け入れなかったりして、トラブルになることがある。

【指導観】

相手のことをより知ることで、自分と違うところがあることに気づくことを通して、それぞれのよさを再確認するとともに、人にはそれぞれ背景がたくさんあり、自分たちが見たもの、知っていたことなどだけでは判断できず、まず自分の視点、価値観、先入観に気づくこと、疑ってみることなどが必要であると考えた。今回、教師海外研修で体験したことを通して、感じたこと、考えたことなどから作成した教材を通して、人それぞれ違いがあることを知る楽しさや他者をもっと深く知ることをで、よりよい人間関係を築くことにつなげていきたい。

【6】単元計画(全3時間)+1時間(道徳)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
	6年1組をもっとよりよくするために	・学級目標に向けて、今の自分や学級についてふり返り、学級全体で話し合う。	・学級目標に対して、前期に達成したこと、達成されていないことなどをふり返り、実態についてのアンケートを実施し、話し合う。	ワークシート
1	自分のいいところって、どこだろう?(道徳)	・それぞれ自分や友達のいいところを考えたり、知ったりすることで、互いの個性をのばし、尊重する態度を身につける。	・自分のよさについて考え、ワークシートに書き、友達から自分のよさを互いに書いてもらい、個性をのばすことには、どうしたらよいか考え、伝え合う。	ワークシート(個性を伸ばす)

2 「本時」	みんなでよりよい人間関係を築くために	<ul style="list-style-type: none"> 人それぞれ違いがあることを知る楽しさや他者をもっと深く知ること、よりよい人間関係を築くことにつながることに気づくとともに、自ら解決方法を意志決定することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級目標をふり返った結果をもとに、課題をつかみ、ワークを通して、自分たちの実態にせまる。また、解決策をさぐり、今後の具体的な解決方法を意志決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真カード 情報カード1 情報カード2 解説カード ワークシート
3	学級報告会をしよう	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な解決方法を実践し、自己での振り返りをワークシート等で行い、学級で報告会を通して、共有し、互いのがんばりを励まし合うことにより、実践の継続を図るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己での振り返り帰りの会などの中で報告会 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート

【7】本時の展開（2時間目）

本時のねらい： 人それぞれ違いがあることを知る楽しさや他者をもっと深く知ること、よりよい人間関係を築くことにつながることに気づくとともに、自ら解決方法を意志決定することができるようにする。

過程時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
「導入」 5分	<p>1.本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>みんなでよりよい人間関係を築くために</p> </div> <p>2.つかむ 学級目標をふり返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>学級目標 「夢に向かって輝け いちくみ」 いつも笑顔で ちゃれんじ くらすで協力 みんなでかがやく</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 仲間で協力はできた。 同じ人たちで関わったり、協力したりが多い。 みんなでかがやいていないのでは。 同じ人とばかりと話したり、接したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> これから話し合うことについて、前回の内容につながるように伝える。 前回の学級活動を想起できるように、模造紙を掲示する。 想起できない場合は、自分のファイルや掲示物見て振り返ることを伝える。 	模造紙

「展開」 35分	<p>3.さぐる 原因を整理し、ワークを体験し、自分自身をさぐる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「my ストーリー」ワーク1をやる。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークを通し、「自分の事」として体験できるように、教師の経験を話す。 	
ワーク1	<p>(1)自分の考えをもつ。 ・話さず、じっくり写真を見て、どんな人が想像して考える。</p> <p>(2)グループで話し合う。 ・グループで自分の予想を伝え合い、どんな人が考える。</p> <p>(3)情報カード1を見て、グループで話し合いながら、写真とマッチングさせる。</p> <p>(4)情報カード2を見て、グループで話し合いながら、写真とマッチングさせる。</p> <p>(5)解説カードを一人一役で読み合いながら、カードの4人のことを知る。</p> <p>4.みつける ・解決方法を話し合う。 ・人それぞれ違いがあることを知る楽しさや他者をもっと深く知ること、よりよい人間関係を築くことにつながることに気づくとともに、自ら解決方法を意志決定する。</p> <p>5.きめる これから、みんなでよりよい人間関係を築くために、具体的な解決方法を意志決定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ※写真を見て、否定的な発言や人が不快になる発言はしないことを事前に伝える。 グループで話し合うことで、様々な視点から多面的に物事について考えられるようにする。 同じ児童ばかりが発言していないか気をつけ、声かけをする。 机間指導をしながら、児童の話し合いの様子を把握する。 この場面での児童の反応をひろう。 ワークを通して感じたこと、思ったことに視点を当てるように声かけをする。 ワークシートにそれぞれの解決方法を書かせる。困っている場合、声かけをする。 	<p>写真のカード</p> <p>情報カード1</p> <p>情報カード2</p> <p>解説カード</p> <p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p>
ワーク2	<p>6.「自分オープン」ワーク2をやる。 ・自分のこと伝えたい。・すっきりした。 ・ドキドキする。・楽しい ・意外だな。・いいね。 ・同じだね。・そうなんだ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 解決方法の一つとして、ワークを行うことを伝える。 クラスの実態により、以下のシールを聴く側が言いながら、項目に貼って伝える。あるいは、ジェスチャーや言葉でできそうな場合は、言葉のみでもよい。 シール青(同じだね) シール黄(いいね) シール赤(へえそうなんだ!) など 	自分オープンカード
「まとめ」 5分	<p>7.振り返り ・振り返りカードに自分の振り返りを書き、これからの生活へとつなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意志決定ができるようにクラスで共有した内容を伝え、支援する。 	ワークシート

【8】評価規準に基づく本時の評価方法

①知識及び技能

- 活動のめあてに向かって取り組むことのよさを理解している。
- よりよい生活を送るための意志決定の仕方を身につける。

②思考力、判断力、表現力等

- 自分の課題に気づき、解決方法を考えたり、友達の意見のよさを生かしたりしながら聞くことができる。

③学びに向かう力、人間性等

- 自分で意志決定した目標を大切にしてい取り組もうとする態度を養う。

本時は特別活動での実施のため、点数での評価は行わないが、ふりかえりシートの内容、授業中の発言および授業後の変容観察などから、通知表の特別活動の欄や行動の様子に反映させたり、コメントを記載したりする。

【9】学習方法及び外部との連携

本時を行った後、JICA 横浜に見学に行った。事前に海外移民資料館のしおりを児童に渡して簡単な説明をした上で、特別展示も含めて見学し、多文化に触れたり、移民について知ったりすることができたことは、子どもたちにとって、社会科の学習や総合的な学習の時間にも広がり、有効であったと思われる。

また、総合的な学習の時間の中のキャリア教育では、JICA 横浜の職員の方に来校していただき、生き方、仕事、世界についてお話して下さったことで、子どもたちの見方、考え方により深まりを与えることができ、感謝している。また、様々な教科、領域で横断的に学んだり、考えたりすることができた。

【10】学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

学校内では、学年で同じ教材を使って授業実践をすることで、児童の実態が違っていると、自分のクラスとは違う反応が見られ、授業研究がより深まった。また、メンター研修の中で、教材を紹介し、体験してもらうこと、ねらい等を説明することで、どの教科や領域で、どのように扱って、どんなねらいに対して、実践可能なのかなどを伝えることができた。また、人権週間でも、学校全体で多文化共生を意識した取り組みを実践する方向になり、これまで教師海外研修で作成された教材も含めて授業に取り組むこととなった。今後、各発達段階などを考慮した教材に変化させることで、より取り組みが可能になると感じた。

【自己評価】

【11】苦勞した点

教材のねらいにせまるには、どの教科、領域でいこうかとても迷った。特に学習指導要領が新たになることも含めてしっかりと検討して授業実践していく必要性を感じた。また、発問については、自分がねらいとしているものを引き出すには、難しい発問ではなく、もっと子どもたちに分かりやすい発問にすべきだと思った。

また、より多くの気づきを把握するのは本時のみでは難しい。よって、振り返りカードの活用が大事だと思った。みんなの気づきを目に見えるようにする必要を感じた。

【12】改善点

児童の発達段階での生活により近くするために、写真カードを子どもにしたものを使うとより身近になると思った。今回、写真カードは、実際に存在される方とPC上のAIで作成した存在しない人の写真を使った。よって、子どもの写真を作成して、行うこともよりよい教材になると思った。また、ワークショップ二つを見ていただきたいと思い、45分に納めるためにワークショップ2「自分オープン」を最後に活動して終わるという流れで行った。しかし、児童の実態から、実際はワークショップを1つずつ1時間で取り組むのも、考える時間の確保を思うと有効的であると思った。

そして、今回は特別活動の中で授業を行ったが、道徳、総合的な学習の時間や社会科など取り組める教科は、多岐に渡ると感じた。ねらいや目的が大切であり、学習の組み立て次第では、多くの学びとなることが今回の実践や振り返りでわかった。

【13】成果が出た点

私たちが教師海外研修を通して出会った人たちから気づかされた目には見えない人々の背景にせまり、その背景を知ることで自分の視点や見方を改めて気づいたり、人のことを互いに理解し合い、違いを知る楽しさや人々とわかり合うことの良さに気づいたりできたことを、児童に疑似体験させることができた。

【14】学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）

ワーク1では、どんな人なのか4人の見えない背景について知って、ここでは、「えー意外だな。」「やっぱりそうか。」「おどろき!!」「そうは、見えなかったな。」など多様な反応が見られた。

ワーク1を終えて、クラス全体で振り返りをした。児童は、「見た目でも改めて人を判断していることに気づいた。」「自分が思っていたことと違う。」「予想と違った。」「グループでは、同じ人物について話し合った時に、一人一人が持っているイメージが違うことがわかった。」ということに気づくことができた。そこから、「決めつけしないで、互いに話し合ったり、知ったりすることが大切だと思った。」「互いを知り合っていく。」「気遣いが大切。」「一人一人の違う意見を聞いて、行動すること。」を解決策として見つけることができた。また、ワーク2については、児童のふりかえりシートのみで行い、後日に読み合って共有した。

1. 4人の写真を見て、グループで話し合いをして、どんなことを思いましたか。
 ・自分の意見の他にもいろいろな意見が出てなるほど!と思った。
 ・ヒートが来るとまたちがう意見が出るのが面白かった。

2. 4人の背景を知って、どう思いましたか。
 ・予想していたのとまたちがたり似ていたりおどろいた!
 ・みんなの意見がさまざま全然ちがった。

3. これから、学級目標に向けて具体的に何をしていきたいですか。
 ・やはり、1人1人が意識するのはとても大変で大変だと思うので意識してきてなかなた時、声をかけ合ってみんなで学級目標を達成する。
 ・いつも笑顔のためにお祭りが楽しいことを!!!

4. 自分のトピラを開けてみて、どうでしたか。感じたこと思ったことを書きましょう。
 ・いつもみんなに言わばいようなことでドキドキしたけど順番に①~④のトピラをめぐっていくのがワクワクしたよ

5. 今日の授業をとおして、学んだことや友だちの意見を聞いて学んだことなどを書きましょう。
 ・同じものを見てても1人1人の意見はバラバラだったので話し合いは大変だと思った。

↑
 みんなの意見をよく聞く!

(児童のふりかえりシートから)

1. 4人の写真を見て、グループで話し合いをして、どんなことを思いましたか。
 - ・人それぞれ感じ方が違うんだな
 - ・人には意見があって、自分には自分なりの意見があり、人は皆それぞれ。
 - ・自分の考えだけで決めるのはダメだなと改めて思った。
 - ・グループで話し合いをしている時に自分の意見と違う人がいて何でこんな考えをもっているんだろうと思った。
 - ・驚きがあった。
 - ・違う考えをもっていることが分かった。
2. 4人の背景を知って、どう思いましたか。
 - ・予想と違いとても驚いた。
 - ・それぞれ違う場所で生きているけれどみんなブラジルに住んでいて、それぞれの過去がとても深いもの。
 - ・思っていたことと違ってとても驚いた。
 - ・考えていたのと全然違ってびっくり。
 - ・印象と違ったので、そうなんだなと感心した。
 - ・自分で考えた人と4人が違って驚いた。
 - ・人によって感じ方が違うんだなと思い、これからは色々な人と交流していきたいと思った。

3. これから、学級目標に向けて具体的に何をしていきたいですか。
 - ・最初に見た時の第一印象と4人の背景が違っていたので、いつも相手の背景を知って、配慮したり、気遣ったりしたい。
 - ・グループで話し合っって1人1人いろいろな考えがあることを学んだ。だから、いろんなことを考えて、クラスでもっと協力してクラスの人のことをもっともっと知りたい。
 - ・一つのことには、みんなで取り組みたい。
 - ・みんなの意見をよく聞く。
4. 自分のトピラを開けてみて、どうでしたか。
 - ・自分のことをみんなに知ってもらえて嬉しかった。
 - ・自分のことをオープンにしてさらけ出して、一つの家族になれた気分だった。
 - ・自分自身も振り返ってわかることがたくさんあった。
 - ・やっぱり自分自身を振り返ることの大切さと友達のことをもっと知るよさにも気づいた。
 - ・人はイメージだけで決めちゃいけないと思った。
 - ・自分で気が付けないことに気が付いた。「あ、あの人はこういうのが好きなんだ」ということに気付いて楽しかったし、意外なことがたくさん知れた。
 - ・人の中は実際に質問しないと分からないし、見かけで判断してはいけないなと思った。
 - ・自分の扉をあけて、自分の事実を伝えられたことなど自分の情報を伝える上でコミュニケーションは大切だ。
 - ・自分自身を振り返ること、友達をより知ることによってこれからの友達への接し方や自分の気持ちも大切に過ごしていきたい。
 - ・友達の知らなかったことを知れてよかった。
5. 今日の授業をとおして、学んだことや友だちの意見を聞いて学んだこと。
 - ・1人1人を思っていることやイメージしていることが違うから、いつも周りを見て行動できるようにしたい。
 - ・感じ方が違うんだなと思いました。これからは色々な人と交流していきたい。
 - ・みんなの意見をしっかり聞いたり取り入れたりすることが大切だ。思っていることや見た目が違うんだなということに気づいた。
 - ・1人1人違う意見を聞いて、みんなはこう思っているのだと気が付いて、自分もこの考え方を活用してみようと思った。
 - ・考えていたのと全然違ってびっくりした。友達のいいところを改めて知ることができた。
 - ・同じ人を見ても1人1人の意見はバラバラだったので話し合いは大切だと思った。
 - ・グループでの話し合いを通して、4人の仲も深まったと思うし、とにかく話す機会も増え、この勉強がとても大切なものだと思えた。
 - ・それ一つのことに対して感じ方が全然違うので、授業の色々なことでも話し合う必要があると思った。

(他にもありましたが割愛します。)

【15】授業者による自由記述

ワーク1のカードについて

○実際に会った人だと想定し、「もし、自分がこの人たちに会ったら・・・」という気持ちで進めることで、自分たちが会ったことのない人たちに会った疑似体験が可能となる。ワークの導入か解説カードを伝え合った後に、「実は先生がこの人たちとブラジルで会ってきたんだよ。」と伝えたり、何らか日系の方の話をしたりすると、その後の多文化共生の授業などにつながるに当たって、効果的になると思われる。

(メリット)

- カードにすることで、聞かなくても情報を得られるので、これまでに会ったことのない人に会うことが可能になる。
- 自分の価値観や先入観、見方を他者と比べることで、それぞれの視点の違いを知ることができる。
- それぞれの違いを知ることを面白い、楽しいと感じ、もっと人のことが知りたいと興味をもてる。

(デメリット)

- コミュニケーションが一方向でしかない。
→互いが写真の人物になり、ロールプレイをするようなワークに仕上げ、組み立てる。
- もっと、こういうこと聞きたいなと興味をもつところが引き出せない。
→改善するためには、情報カードの内容をもっと増やしたり、内容項目を変えたりすると、それぞれの児童の実態や発達段階に合った教材になると思った。

○ワーク1をする前に、「否定的な発言、人が不快になる言葉は言わない。」と言うか、言わないか。

- 言わないバージョン
ワーク1「my ストーリー」をする前に、何も会話についてルールを言わない方が、本音が出て、これまでの自分の思考などが見えて気やすい。(しかし、見た目でひどくからかったり、容姿を笑ったりしながら、話し合いをしていた。)
- 言うバージョン
本音が出にくくなった。指導者としては、表面化しにくくなった。

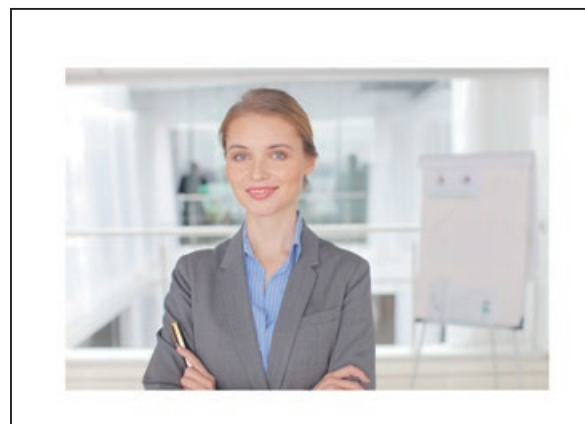
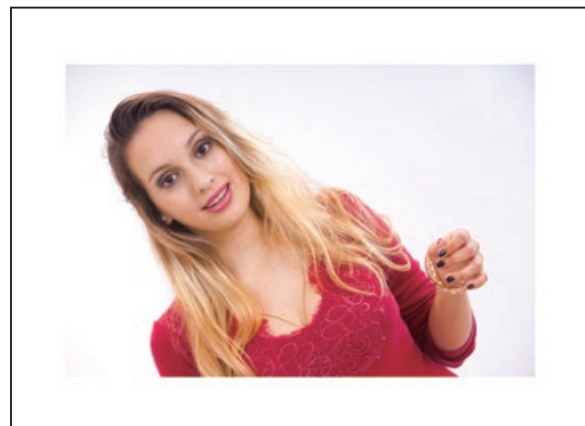
教科、領域について

- 道徳で行うとすると、選定図書がしぼりができたり、読み物かVTR有の授業を求められたり、ぴったりマッチする教材がないとこのワークの主旨がずれていくように感じたので、今後、よい教材が見つければと思った。流れとして、最後に道徳的価値におとさなければいけないが、その価値に自分たちで気づいていくことを大事にしたいのであれば、しっかりと教育課程のどの部分なのかを吟味する必要も出てくる。しかし、見た目でのいじめや偏見などにクローズアップするような視点で、追求していこうとするのであれば、またこのカードはとても効果的な教材と思われる。特に、人権という視点では求められているので、今後、道徳の授業の構築を考えたい。
- 総合的な学習の時間で行うとすると、私の学校ではプログラムが固まっていることもあり、設定するには、全体の構成と流れをしっかりと作らないといけないと感じた。しかし、組みこんでいくことは、有効と思ったので、今後の学校経営もふくめて、プログラムを作っていくことは、多文化共生という視点では、期待できる。
- 今回は特別活動で行ったが、道徳にはない自分たちで考えたり、話し合ったり、解決策を意志決定し、行動へとつなげていき、自分だけではなく、クラスや全体でふりかえりができることが、特別活動の良さだと感じた。

今回は、指導要領の学級活動の内容(2)ーイで行ったが、新しく注目されているキャリア教育の視点でせまってみても授業としては成立すると感じたので、検討していくとよいと思った。

添付資料

○写真カード



○情報カード1

フジコさん
両親の国籍 父：ブラジル 母：日本
生まれ 日本
育ち 12歳まで日本 その後ブラジル
タイスさん
両親の国籍 父：ブラジル 母：ブラジル
生まれ ブラジル
育ち 7歳から17歳まで日本 その後ブラジル

○情報カード2

ルイスさん
両親の国籍 父：日本 母：日本
生まれ ブラジル
育ち ブラジル
オサムさん
両親の国籍 父：日本 母：日本
生まれ 日本
育ち 23才まで日本

言語	ポルトガル語 日本語
趣味	ダンス
仕事	通訳
言語	ポルトガル語 日本語
趣味	サッカー
仕事	学校の先生
言語	ポルトガル語 日本語
趣味	卓球
仕事	通訳
言語	コロニア語 (日本語も使える)
趣味	和太鼓
仕事	農園経営

○解説カード


名前：モラエス 富士子 カロラインさん 

生まれ：日本

育ち：12歳まで日本

<フジコさんの話>

私はブラジル人で母は日本人です。私は日本で生まれ、12歳まで日本で過ごし、日本の学校に通っていました。その後、父とブラジルに渡りました。今は私以外の家族は日本にいますが、私は明るくていつも陽気なブラジル人の性格が大好きで、ブラジルで1人暮らしをしています。日本語もポルトガル語も話すことができますので通訳としてブラジルで働いています。年に1度あるリオのカーニバルが楽しみです。


名前：岡本 ルイスさん 

生まれ：ブラジル

育ち：ブラジル

<ルイスさんの話>

私の両親は日本で生まれ育ちました。それから結婚してからブラジルに渡り、私を生みました。私は、ブラジルで生活し、両親による熱心な教育で、ポルトガル語と日本語を話すことができるようになりました。現在はブラジルで通訳の仕事をしています。20代の頃、編纂に強みが入り、高を置かれたことがあります。高を突きつけられたときは、「負けた。」という気持ちになりました。


名前：レイチ タイスさん 

出身：ブラジル

育ち：7～17歳まで日本

<タイスさんの話>

私の両親はブラジル人です。私もブラジルで生まれました。7歳のときに父の仕事の都合で日本に行き、小学校2年生から高校2年生まで日本の学校に通いました。日本の学校で一番驚いたのは、生徒が掃除をすることです。ブラジルでは、清掃員さんが掃除をします。今はブラジルで生活しています。私は日本語もポルトガル語も話すことができますし、日本もブラジルも好きです。

名前：ヤマシタ オサム さん 

出身：日本

育ち：日本

<オサムさんの話>

私は日本で生まれ育ちましたが、日本で仕事を探すことが困難になり、23歳のときに一人でブラジルへ移住しました。ブラジルで日本人女性と結婚し、今では孫もいます。村では主に「コロナ語」を使っています。日本語を話すことが減ってきたため孫たちは日本語が苦手です。仕事は農園の経営で、最近では「びわ」の栽培に力を入れています。8月には村全体で「びわ祭り」を開催しています。

○ふりかえりカード

ふりかえりカード

年 組 番 名前 ()

- 4人の写真を見て、グループで話し合いをして、どんなことを思い出したか。
- 4人の背景を知って、どう思いましたか。
- これから、学級で具体的に何をしていきたいですか。どう行動していきたいですか。
- 自分のトピタを開けてみて、どうでしたか。感じたこと思ったことを書きましょう。
- 今日の授業をとおして、学んだことや友だちの意見を聞いて学んだことなどを書きましょう。

わかば いいね！ ～みつめてみよう じぶんのこと～

【実践者】

	氏 名	兵頭 絵梨	学 校 名	大和市立上和田小学校
	担当教科等	特別支援学級(わかば級)	対象学年(人数)	1～6年生(20名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2019年11月～2019年12月(4時間)		

【実践概要】

【1】実践する教科・領域

教科・領域を合わせた指導(生活単元学習)

【2】単元(活動)名

わかば いいね！～みつめてみよう じぶんのこと～

【3】授業テーマ(タイトル)と単元目標

授業テーマ： ○自分のちがいを表現し、友だちのちがいを受けとめる体験をすることで、互いに認めあう関係をつくるきっかけとする

ワークショップ(WS)① みんなにあるもの なあんだ

ワークショップ(WS)② じぶん いいね

単元目標： ・自分のちがい(いいところ)を友だちに伝えることができる
・友だちのちがい(いいところ)を受けとめることができる

関連する指導要領上の目標：

個別の指導目標と評価に基づく

※下記 学習指導要領より抜粋

生活単元学習では、児童生徒の学習活動は、実際の生活上の目標や課題に沿って指導目標や指導内容を組織されることが大切である。個々の児童生徒の自立と社会参加を視野に入れ、個別の指導計画に基づき、計画・実施することが大切である。

【4】単元の評価規準例

- ・自分のちがい(いいところ)を友だちに伝えることができたか
- ・友だちのちがい(いいところ)を聞いて受けとめることができたか

【5】単元設定の理由・単元の意義(児童/生徒観、教材観、指導観)

【単元設定の理由】

本校の特別支援学級(以下、わかば級)の子どもたちも、いずれ社会に参画していく。そのために、特別支援学級担任として、あたたかな人間関係を築くためのサポートについて日々考える。

わかば級には、交流級に比べると安心できないと答える子どもたちがいる。(※アンケート結果参照)ブラジルで移民の方々から「外に出る」ことがオープンな関係をつくるチャンスだと教わった。し

かし、わかば級の子どもたちにとって、もし交流級に行くことが「外に出る」ことだとしたら、きつとすごく勇気のいることなのだと思う。外国につながる子どもたちも在籍している。そのハンデはさらに壁を高くしているかもしれない。

そこで、ブラジルの子たちのように、友だちと互いのちがいを認めあうことができれば、交流級にも居心地のよい場が広がるのではないかと考えた。まずは自分のことを表現し、相手の「ちがい」を受けとめるやり取りの体験が、わかば級の子どもたちには必要だと考え、本単元を設定した。自分に自信をもつためのサポートや、コミュニケーションを図るためのサポートが、どんな人でも互いに理解し合い、よりよい社会を目指していくこと（ノーマライゼーション）につながると信じている。

【児童観】

本単元を設定するにあたり、事前アンケートを実施した。設問は以下の通りである。

- ① いちばん すきなところは どこですか。
- ② いちばん たのしいのは、だれと いるときですか。
- ③ クラス(○ねん○くみ)にいと ほっとする・あかるいきもちになりますか。
- ④ じぶんのことが すきですか。
- ⑤ じぶんのくに(にほん)が すきですか。

設問①で「おうち」設問②で「かぞく」と回答した子がそれぞれ10人以上と多く、家庭に安心感を持っている子が多いことがわかる。反面、設問③に「あまりならない」「ぜんぜんならない」と回答した子は計11人、設問④に「あまりすきじゃない」「きらい」と回答した子は計8人だった。自分に自信が持てない子や、交流級で学習することに安心感を持てずにいる子がいることがわかる。

わかば級の子どもたちは、一年生のときから一緒に生活している子たちがほとんどであるため、互いのことを比較的理解している。たとえば、感情のコントロールができず怒っている子がいる場面では、その子が「声をかけた方がいい子」なのか「そっとしておいた方がいい子」なのかを知っている。しかし、命令するような言葉ばかりを言う子や、それに対して「反論すると相手が怒るから」と、受け入れてしまう子など、関係づくりの課題もある。子どもたちの様子を見ていて、交流級に安心感が持てない子や、友だちを自分の思い通りにすることで関係をつくろうとする子は、他者と認めあうことができた経験が少ないのだと考えている。

【指導観】

めあて **自分に自信をもつこと**
 ↑自分のちがい(いいところ)を受けとめてもらう ←友だちのちがいを受けとめる
 ↑自分のちがい(いいところ)を表現する
 ↑自分のちがい(いいところ)を見つける

本単元では、多文化であり、見た目も大きく異なるブラジルの人々の話を、導入の題材とした。人には、誰にでも「ちがい」があり、見た目も背景もちがう。それぞれがオンリーワンの物語を持っている。自分のちがいを表現し、それを受けとめてもらうこと。友だちのちがいを受けとめること。このやり取りを行うことで、他者とあたたかな関係を築ききっかけになればと思う。

ただ、この先どんな「ちがい」でも受けとめてもらえるかという、努力して自分が歩み寄らなければならないときもあるだろう。そこで、本単元では「ちがい」を「いいところ」と表現し、わかば級の子どもたちが視点をしばって考えることができるようにした。

本単元を通して、わかば級の子どもたちが、少しでも前向きな気持ちで交流級へ向かうことができるよう願っている。

【6】単元計画 (全4時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	みんなにあるものなあんだ	見た目だけではわからない「ちがい」は誰にでもあるということがわかる	<ul style="list-style-type: none"> ○WS①を行う ・担任がブラジルの人物になりきりクイズを出題する ・ワールドカフェ方式 ○ブラジルの「ちがい」について知る ・様々な見た目や文化の人々がいることを知る ・内面を見れば誰にでもちがいはあると知る 	<ul style="list-style-type: none"> ○WS①セット ○「いいね」「そうなんだ」のサイン ○地球儀 ○現地の写真
2 [本時]	じぶん いいね	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のちがい(いいところ)を友だちに伝えることができる ・友だちのちがい(いいところ)を受けとめることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ○WS②を行う ・教員のデモンストレーションで、活動内容をつかむ ・グループで行う ・「いいところカード」(花びらの記入用紙)に書く ・友だちのいいところを聞いて反応する ・友だちにいいところを考え、伝える ○ふりかえりをする ・思ったことや気づいたことを自由に話す 	<ul style="list-style-type: none"> ○WS②セット (わかば級用にアレンジ…本時参照) ○「いいね」「そうなんだ」のサイン ○表情カード
	じぶん いいね (つづき)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のちがい(いいところ)を友だちに伝えることができる ・友だちのちがい(いいところ)を受けとめることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ○WS②の続きを行う ・終わっていない部分の記入を進める(友だち②、先生) ・「いいところカード」を完成させる ○廊下に掲示する 	<ul style="list-style-type: none"> ○WS②セット ○「いいね」「そうなんだ」のサイン
3	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 20px;">写真カード</div> </div>			

4	せかいのはなし	<ul style="list-style-type: none"> ちがう国の話を聞いて「いいところ」を見つけることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時のふりかえりをする <ul style="list-style-type: none"> 互いに「いいところ」を認め合うことができたことを想起させる 本時はちがう国のいいところを考えることを目標とすることを伝える ○JICA出前授業を行う <ul style="list-style-type: none"> マラウイについて話を聞く ○ふりかえりをする <ul style="list-style-type: none"> 見つけた「いいところ」やわかったことについて話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> ○「いいね」「そうなんだ」のサイン ○JICAの方の持ち込み資料
---	---------	--	---	---

「まとめ」 5分	<ul style="list-style-type: none"> 5.ふりかえりをする。 <ul style="list-style-type: none"> 思ったことや気づいたことを言う 友だちのふりかえりを聞く 	<ul style="list-style-type: none"> 自由に挙手発言させる 	<ul style="list-style-type: none"> 「いいね」「そうなんだ」のサイン
-------------	--	--	--

【8】評価規準に基づく本時の評価方法

個別の評価に基づく

児童の実態に合わせて個別に設定する評価規準に基づき、友だちとのやり取りの様子から判断する。

【7】本時の展開（2時間目）

- 本時のねらい：
 - 自分のちがい（いいところ）を友だちに伝えることができる
 - 友だちのちがい（いいところ）を受けとめることができる

過程時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
「導入」 5分	1.前時の登場人物についてさらに知る。 <ul style="list-style-type: none"> 誰にでも「ちがい」はあると確認する 聞いたときには必ず反応する 「ちくちくことば」を使わないことを確認する カロラインさん 見た目：こわそう、怒りそう ちがい：子どもと一緒に遊ぶのが好き	<ul style="list-style-type: none"> 今回は「ちがい」を「いいところ」とする 	<ul style="list-style-type: none"> カロラインさんの写真カード 「いいね」「そうなんだ」のサイン ルール(×ちくちくことば→○ふわふわことば)
「展開」 35分	2.本時のめあてを知る。 ①じぶんのいいところをともだちに つたえよう。 ②ともだちのいいところをきいて はんのうしよう。		<ul style="list-style-type: none"> めあてカード
	3.教師の「みんなに知ってほしい いいところ」を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> 聞いたときには必ず反応する 兵頭先生 なんでも美味しく食べるところ 横山先生 家族を大事にするところ 習字が得意なところ 4.ワークショップ「じぶん いいね」をグループで行う。 ①自分の「みんなに知ってほしい いいところ」を書く(または選んで貼る) ②友だちに伝える ③友だちの「みんなに知ってほしい いいところ」を聞く ④「いいね」「そうなんだ」サインで反応する ⑤友だちのいいところを考え、伝える →伝えてもらったことを書く ⑥花びら(記入用紙)を写真カードに貼る	<ul style="list-style-type: none"> 教師という身近な存在のデモンストレーションを見せることで、具体的なイメージがつかめるようにする すでに学級の子たちが知っていることでもよいと伝える 一人ずつちがってもそれは当たり前だということをおさえる 何を書いたらよいかわからない子がいたら、以前行った「自分の好きなところ」のアンケートをふりかえる 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の写真カード 「いいね」「そうなんだ」のサイン 活動の流れ 子どもたちの写真カード 花びら(記入用紙) 「いいね」「そうなんだ」のサイン 以前行ったアンケート

【9】学習方法及び外部との連携

○ゲストティーチャーとの連携

本単元では、ブラジルの人たちの物語を、自分のことや友だちのことを考えるきっかけとした。最後である4時間目に、JICA職員の方をお呼びし、ブラジル以外の国として、マラウイの話を聞いた。自分のことも友だちのことも大切に想う気持ちとともに、世界とのつながりを忘れず、たとえ離れたところで暮らす人々であっても「いいところ」を見てほしいという願いがあった。

JICA職員の方がその願いを受けて話をしてくださったので、子どもたちからは素敵だと思ったマラウイの文化について、またマラウイの人のあたたかさについてのふりかえりが多かった。

○学習者同士の交流を活発にするための手立て

グループを構成するメンバーは、人間関係を考慮して教師が組んだ。本単元では、自分のいいところを伝える(自己開示をする)ので、なるべく安心できるように、遠足に行ったときのメンバーにした。友だちのいいところも伝えるため、かかわりの多い同じ学年同士(もしくは低・中・高)にしようかと悩んだが、「関係をつくる」という観点から、さまざまな学年の子どもたちを集めたグループにした。

教材やアイテムも工夫した。「いいね」「そうなんだ」というサインをペープサートのような札にして用いたのは、発語のない子やポジティブな言葉が浮かばない子、交流が得意でない子たちが安心して活動できるようにするためである。いいところを記入する用紙も、好きな色が選べて、掲示したときにわくわくできるよう「花」の形にした。子どもたちはどちらも気に入って、普段から「いいねー！」と言うようになった。また「花」をつくる活動にも意欲的に取り組むことができた。

【10】学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

本単元の第一時、第二時(実践授業)は、どちらも「オープン授業」という形をとり、事前に校内の先生方にお知らせした。実践授業には、10名程の先生方が見に来てくださり、グループに入って一緒に話し合ってください先生もいらっした。JICA出前授業は、わかば級の授業を見に来てくださった先生が手を挙げ、他の学年でも実施した。1月には校内と、大和市教育研究会の外国語部会で本研修の報告をさせていただいた。

【自己評価】

【11】苦勞した点

小学校では、特別支援学級ならではの、行事の多い学校生活の中で、子どもたちみんなを集める時間を確保するのが難しかった。急にワークショップやブラジルの話を聞くことになったので、戸惑った子もいたと思う。

【12】改善点

予め様々な学習の中で異文化に触れたり、長期的にゆっくり、じっくり単元に取り組むことができたりすると、さらに深まりのある学習になると思う。

【13】成果が出た点

自分のいいところや友だちのいいところを認めることができたことや、ちがう国の話を聞いて、「いいところ」を見つけることができたこと、普段から相手の話に「いいね！」と、あたたかな反応をする子が増えたことに成果を感じた。

【14】学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）

一部だが、以下のような子どもたちの変容の様子を見取ることができた。

- ・人とかかわりが得意でない子たちも多いが、実践授業で「グループのみんなのいいところを見つけてよかった」「〇〇くんが優しく、手伝ってくれた」「他のグループのことも聞きたい」といったふりかえりがもたらえたこと
- ・アフリカの場所すら知らなかった子たちが、マラウイの話を聞いて「わたしもアフリカに行ってみたい」「マラウイの人はやさしいと思いました」「ほかの国のことも知りたい」といった感想をもったこと
- ・学校に来ることが難しい子が「みんながちがいを認めるのが大事だと思います」と話してくれたこと

【15】授業者による自由記述

特別支援学級は複数担任であることが多い。一斉授業をするときには、教員の連携が不可欠だと思う。今回の研修参加や、単元づくりから実践まで、わかば級の先生方に全面的に協力していただいたことが、子どもたちの学びに大きなプラスとなった。

JICA 職員の方に来ていただいたとき、子どもたちの笑顔をたくさん見ることができた。わかば級の子どもたちは、毎日たくさんの壁と出会う。ちがう国のちがう文化を受け入れる活動が、友だちと自分のちがいを受け入れることにつながり、壁を乗り越えるきっかけになるよう願っている。また、わかば級にゲストティーチャーをお呼びしたことは、少なくとも過去数年間はなかったようなので、これからも積極的にお呼びしたいと感じた。

今回の単元における学びや想いは、教師海外研修に参加できたことで得られた。どんな単元や授業、活動も、チームでつくるのが、子どもたちの学びを高めることにつながると改めてわかった。

研修にかかわるすべての方に感謝するとともに、これからも校内・外の様々な人たちと、子どもたちを成長させることができるような取り組みを続けていきたい。

添付資料

○わかば級 事前アンケート結果

	おうち	がっこう	ともだちのおうち	こうえん	おじいちゃんやおばあちゃんのおうち	それ以外
①いちばんすきなところ	12	5	3	2	1	・せまくて暗い場所 ・自分のへや
②いちばんたのしいとき	10	5	1	1	4	それ以外
③〇ねん〇くみにいると、ほっとする・あかるいきもちになる	4	2	3	3	8	
④じぶんのこと	5	2	5	4	4	
⑤にほん	13	3		3	1	

○写真カード



○「いいね」「そうなんだ」のサイン




○表情カード



『すべての人』のために、 『わたし』にできることは？

【実践者】

	氏名	田井 さゆみ	学校名	横浜市立六ツ川中学校
	担当教科等	理科	対象学年(人数)	3年 3組(38名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2019年11月～2019年12月(2時間)		

【実践概要】

【1】実践する教科・領域

理科、総合的な学習の時間

【2】単元(活動)名

人間と環境

【3】授業テーマ(タイトル)と単元目標

授業テーマ：『すべての人』のために、『わたし』にできることは？

単元目標： 本単元を通して、人と人、人と環境、人とあらゆるものがどのように結びつき、影響し合っているかを生徒一人ひとりが考えていく。そして、その背景にある関係性や未来に予想される事象から、『自分』という人間は、あらゆるものとの繋がりの中で生きていることに気づく。『自分』、『他』ともに、いかにかけがえのない存在であるかを感じるとともに、これからの自分の在り方を考えていくきっかけとなる。

関連する指導要領上の目標：

自然界における生物相互の関係や自然界のつり合いについて理解させるとともに、自然と人間のかかわり方や人間と人間のつながりについて理解を深める。

【4】単元の評価規準例

- ①知識及び技能 人には様々な背景や過去があることを理解し、それらを「違い」として認め、尊重しようとしている
- ②思考力、判断力、表現力等 ワークショップから学んだことや考えたことを自分の言葉で表現し、伝えることができる
- ③学びに向かう力、人間性等 ワークショップに意欲的に参加している

【5】単元設定の理由・単元の意義(児童/生徒観、教材観、指導観)

【単元設定の理由】

私は教師として、子どもたちの『目の前の人を大切に思う心』を育むことを、目標にし続けてきた。一人の人間の背景にはたくさんの人やものが繋がっており、目の前の人間に向ける自分の言動が、

その多くの繋がりにも影響を与えていく。人を喜ばせれば、その人を大切に思う人々も喜ぶ。人を悲しませれば、その人を大切に思う人々も悲しむ。一見、一対一の関係のようであっても、互いの背景を想像することで、人間関係の重みをしっかりと捉えることができると考えている。そこで今回、『人間と環境』という単元において、まずは『人間』についての追究を設定した。また、本学年は10月に行われた文化祭において、総合的な学習の時間に探求したものを各自がプレゼンテーションを行った。『私が主役！～日本と世界の架け橋になる～』というテーマのもと、SDGs17の目標を通して、世界の現状や課題を多角的に捉え、分析し、自分にできることを考察していった。SDGsの1番と16番を選択し、『すべての人のために』を多くの生徒が考えており、生徒の関心が『人間』に向けられていることを強く感じた。

以上の理由から、生徒一人ひとりが、人やものの背景や繋がりに目を向け、想像することの大切さに自ら気づいてほしいという願いから、本単元を設定した。

【単元の意義】

身近な人について、見えていなかった面を新たに知ること、一人ひとりに背景や文化があることに改めて気づく。そのような『ちがひ』を認め合っていくことで、皆が安心して生活できる環境を生徒たちが作り上げていく。

【生徒観】

周囲との『ちがひ』を不安に感じることや周囲からの評価を過剰に気にすることが多いようである。SNS上では自己開示を気軽にするものの、実生活ではそれができず、自分の考えを内に秘めていく生徒もいる。その結果、問題行動に繋がることもある。

また、高校受験を控え、目標に向けて学習に取り組む生徒が多い。その一方で、模試の結果や偏差値の変化に一喜一憂し、気持ちが不安定になっている生徒もいる。目先の点数や結果ではなく、中学3年生の今だからこそ『人』として大切にしてほしいことを伝えていきたい。

【指導観】

『目の前の人を大切に思う心』を育むことを目標にし続けてきた。教師自らも、一人ひとりしっかりと向き合うこと、小さなことでもよい面をしっかりと認めていくこと、「すばらしい!」と直接伝えていくことを日々行っている。本単元でも、その姿勢を全面に出していきたい。

【6】単元計画(全2時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	人間と環境	(1)『人間』について考える •人を見た目だけでは判断することはできない	1.『人間』とは? •人間とは何か?という大きな問いに対して、思考する。 2.『人間』をどのように区別している? •自分がどのように人間を区別しているかということ振り返る 3.幸せだと思う順に並べてみよう! •様々な国の少年少女の写真を見て、幸せだと思う順を根拠を明確にしたうえで並べる	•PowerPoint •『人間と環境』ワークシート •『幸せ順に並べよう』の写真 •ワークショップ①に必要なセット

		<ul style="list-style-type: none"> 内面、過去、経験、背景など、一人の人間には表面には見えないもの、周囲が知らないことがたくさんある 何が良い、何が悪いではなく、みんな違うことが当たり前であるなどに気づかせる 	<p>4. 田井がブラジルで出会った人々(ワークショップ①)</p> <ul style="list-style-type: none"> ブラジルで出会った4名の顔写真と背景をマッチングさせていくワークショップを行う <p>5. ワorkshopを振り返りながら、自分の『人』に対する考え方を振り返る</p>	
2 「本時」	人間と環境	<p>(2)『人間』について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの背景や文化を認め合い、尊重し合うことで、安心感が生まれ、みんなにとって居心地のよい環境になることに気づく みんなにとって安心して生活できる環境を自分たちで行っていききたいと感じる 『目の前の人を大切に思う心』が成長する 	<p>1. 前回の復習から自分たちにとって大切なものを考える</p> <p>2. すべての人のために、今できることをやる</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な人に自分のことを伝えていくこと 身近な人のことを知っていくこと <p>3. 『みーんなの、オープン』を作成する</p> <p>4. 発表・傾聴をあたかな雰囲気のもとで行う</p> <p>5. 振り返りながら、改めて今の自分たちにできること、必要なことを考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> PowerPoint 『みーんなの、オープン』(ワークショップ②)に必要なセット 振り返りワークシート

		<ul style="list-style-type: none"> 本時の全体像を把握させ、見通しをもたせる 作成したものを順番に開示していくことを事前にしっかりと伝える 		
「展開」 30分		<p>3. 『みーんなの、オープン』を作成する</p> <p>初め：中央に自分の似顔絵とニックネームをかく</p> <p>①：好きな○○</p> <p>②：今までで一番うれしかったこと</p> <p>③：今までで一番つらかったこと</p> <p>④：自分の性格を一言で言うと</p> <p>⑤：こんな人になりたい(将来の夢など)</p> <p>⑥：実は私…!</p>	<ul style="list-style-type: none"> 机間巡視を行い、しっかりと作業を進めている生徒を大いにほめる 書きたくないことを無理にかく必要はないことを伝える 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の見本『みーんな、オープン』拡大版
「まとめ」 10分		<p>4. 自己開示・傾聴をする</p> <ul style="list-style-type: none"> 聴く側は、感じたことを大きめに反応しながら話し手の発表を聴く 話し手と聴き手の双方を経験することで、互いにとってのより良い示し方を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 教師自らが作成したもの(拡大版)を全体で発表する 一人で二役(話し手と聴き手)を大きめに演じ、発表の楽しさを全身で伝える あたかな反応を示している生徒や班を大いにほめる 	
		<p>5. 振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに記入しながら、本時の様々な場面での自分の気持ちを振り返る 改めて、自分の在り方を見直し、何ができるかを考え始める。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配布する 教師自らの背景や過去を写真で示し、生徒のみならず、教師にも大切な背景があることに気づかせる まとめは押しつけにならないように、きれいにまとめようとしな 	ワークシート

【7】本時の展開(2時間目)

本時のねらい：『すべての人』のために自分にできることを考えていくためには、まずは『身近な人』のためにできることを考えていくことが大切。身近な人の背景や文化を知ること、皆が大切な存在であることに気づき、『目の前の人を大切に思う心』を成長させる。

過程時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
「導入」 10分	<p>1. 前時の振り返りから考える</p> <ul style="list-style-type: none"> 内面、過去、経験したこと、その人の背景(※生徒の振り返り用紙より)など、見た目ではわからないことは多くある。 <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">私たち、どうする?!</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>①これから、多くの新たな出会いを迎える私たち</p> <p>②文化祭での総合的な学習の時間の発表で、「すべての人のために…」を考えて発表した経験がある私たち</p> </div> <p>•『すべての人』のために、まずは、身近な人と向き合っていこう!</p>	<ul style="list-style-type: none"> 見た目だけではわからない背景があることを再確認する これから経験することや過去に経験したことを通して、自分たちが課題意識をもっていくことの大切さに気づかせる 	<p>PowerPoint</p> <ul style="list-style-type: none"> 『みーんなの、オープン』

【8】評価規準に基づく本時の評価方法

- ①知識及び技能
 - 授業全体を通して、説明をしっかりと理解し、的確な行動がとれる
 - ワークショップ時、他者の発表に対して、分かりやすい反応を示している
 - 振り返り時、ワークショップの前後を比べて気づいた気持ちの変化を、自らの言葉で表現できる
- ②思考力、判断力、表現力等
 - ワークショップ時、話し手と聴き手の双方を経験することで、他者の立場で物事を捉えられるようになる
 - 自らの背景や文化、過去を他者に開示できる
 - ワークショップを通して感じたことを周囲に発信できる
- ③学びに向かう力、人間性等
 - 他者の発表に対して、前向きになれるような反応を示すことができる
 - 意欲的にワークショップに参加し、ワークショップを通して自分の気持ちの変化を振り返ることができている

【9】学習方法及び外部との連携

学習者同士が自分の過去や背景、文化を開示し合う活動を行うことで、一人ひとりの『ちがひ』に目を向けるきっかけづくりを行った。『ちがひ』に自信がもてず、周囲と違うことでいじめ等の

問題につながるが多発している学校現場において、全員が勇気をもって『ちがひ』をオープンにしていくことで、一人ひとりが大切な存在であるということ、一人の人間の背景にはたくさんの人や文化がつながっていること等に生徒たち自らが気づいてほしかった。

今年度本校では、総合的な学習の時間で、世界の人々のために自分にできることを考える学習を行ってきた。6月には、JICA 横浜の国際協力出前講座を依頼し、自分にできることを考えていくためにまずは何から始めていくことが大切かということについて講師の方にお話しいただいた。講座を通して、まずは、何事においても『自分にできること』を考えていく前に、『なぜ、その現状があるのか』を分析していくことが大切であるということを生徒たち自身が学ぶことができた。その学びは、今回の学習でも活かすことができたと思う。今回のワークショップ等を通して、目の前の人をより一層大切にしていきたいと感じることができた生徒たちは、まずは相手のことを『知っていくこと』から始めていくと思う。「なぜ?」と考え、相手の背景に目を向けていくことで、一人の人間の存在をより一層真剣に受けとめられるようになったと考える。

【10】学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

六ツ川中学校3学年は、昨年度の総合的な学習の時間から、『私が主役!～日本と世界の架け橋になる～』をテーマに、学習を行ってきた。昨年度は生徒が一人ひとり自分の担当の国を決め、その国についての調べ学習を行った。その国の文化や教育、食べ物や交通など、様々な分野についてインターネットや本を利用して調べ、最終的に、その国の素晴らしいところ、日本にも取り入れたいと思うところをまとめた。そして、そのためにはどんなことから始めていく必要があるのか、自分には何ができるかについて考察を広げた。今年度は、昨年度同様のテーマを設定し、SDGsを通して世界の未来のために自分にできることを考えてきた。世界の様々な課題に対して自分にできることを考える前に、まずはなぜその現状があるのかを分析していくことから始め、展開していった。10月に行われた文化祭では、自らの学習をまとめ、各自がプレゼンテーションを行った。周囲に発信していくことで、「なんとかしなきゃ!」という思いをより一層引き立たせることができたと思う。

【自己評価】

【11】苦労した点

答えを教える授業ではなく、生徒が自らの気持ちの変化に気づく授業にするために前時の内容や、説明の仕方を慎重に考えた。授業全体を通して、落としどころがはっきりとしない形になることが予想されていたが、何か一つでも生徒の心に残ってほしいと思い試行錯誤しながら行った。「答えはない」ということは生徒にのみならず、授業者にとっても難しいと感じた。

【12】改善点

理科に取り入れることの難しさを痛感した。環境単元の『人間と環境』の章の導入として実践したが、『人間』に偏った内容となってしまった。より一層、人間と環境との結びつきを取り上げることで、単元に沿った実践ができたのではないかと感じている。

【13】成果が出た点

友だちの様々な面に対して、咄嗟に「意外!」と声を上げる生徒が多くいた。そのことから、今回のワークショップがなければ知ることができなかった多くのことを互いに理解し合えたことはとても良かったと感じている。また、恥ずかしいと感じながらも勇気を出して自らを開示していくことで、達成感を味わうことができた生徒も多くいたようである。ワークショップ後に、一人の生徒が学級全体の前で自分が作成した『みーんなの、オープン』を開示したいと名乗り出るという予想外の展開になり、とても盛り上がった。

日常生活においても、誰しもがもっている表面には見えないものに目を向けようとする力を磨いてほしい。

【14】学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）

『みーんなの、オープン』を作っているときの気持ち

- 自分のことについてすぐに書けなかった。
- みんながどんなこと書いているか気になりました。
- こんなこと書いても大丈夫かなと思った。
- 自分についてあまりよくわからなかった。

『みーんなの、オープン』をオープンしているときの気持ち

- オープンするのは恥ずかしかった。
- みんなの反応が心配だった。
- みんなが反応してくれてうれしかった。
- 自分にとっては嫌なことでも、「すごいね!」と言われて自信になった。

『みーんなのオープン』を聴いているときの気持ち

- とにかく意外なことばかりで楽しかった!
- もっとみんなのこと知りたいなと思った。
- みんな違うんだなと思った。
- 自分がちっぽけだと思った。
- 人のこともだけど自分のこともあまり知らないんだなと思いました。

『みーんなの、オープン』前後での気持ちの変化について

- もっと友だち大切にしたい
- みんなに大切なものや人がいるということに気づけた
- 自分のこともっとオープンにしてもいいかなと思えました。
- 見た目では分からないことがたくさんある!

【15】授業者による自由記述

多くの方々にお力添えいただいたおかげで、本授業の実践ができたと感じております。授業は授業者一人で作り上げていくものではないということを改めて痛感しました。ブラジルでの教師海外研修を通して、一番感じたことが『人と人のつながり』というものでした。文化や背景、環境

等全く異なる人でも、必ず一人ひとりが大切な存在であるということをこれから出会う子どもたちにも伝え続けていきます。また、私自身、日々多くの人と向き合うことができる学校という恵まれた環境の中で、多くの文化と触れ、新しい文化を築き、どのような文化も前向きに受けとめ認めていきたいと強く感じています。

添付資料

○ワークシート

「みんなの、オープン」 ふりかえり

組 番 名前 _____

1. ①～③のことをしているときに、あなたはどんなことを感じましたか。

①「みんなの、オープン」を作っているとき

②自分をオープンしているとき。

③人のオープンを聴いているとき

2. 「みんなの、オープン」の前と後で「変わったこと」「変えようと思ったこと」を教えてください。

「変わったこと」

「変えようと思ったこと」

○本時で使用した PowerPoint


1

人間と環境

2

人間と環境

3 前回の復習



4 前回の復習

5. 【ブラジルで田井が出会った人々】をやってみて感じたことを書いてみよう！

人は名前が F5 だ。 いざし人だ いるんだって思った。
おしえててバスターの名前が いざし だ、って思った。
人はおもしろい

5 前回の復習

5. 【ブラジルで田井が出会った人々】をやってみて感じたことを書いてみよう！

人は おもしろい だ。
おもしろい だ。
もっらい バスター だ。

5. 【ブラジルで田井が出会った人々】をやってみて感じたことを書いてみよう！

おもしろい人は おもしろい だ。 おもしろい だ。
おもしろい人は おもしろい だ。 おもしろい だ。
おもしろい人は おもしろい だ。 おもしろい だ。

6 前回の復習

5. 【ブラジルで田井が出会った人々】をやってみて感じたことを書いてみよう！

人は おもしろい だ。
おもしろい人は おもしろい だ。
おもしろい人は おもしろい だ。

5. 【ブラジルで田井が出会った人々】をやってみて感じたことを書いてみよう！

おもしろい人は おもしろい だ。
おもしろい人は おもしろい だ。
おもしろい人は おもしろい だ。

7 前回の復習

内面、過去、経験したこと、その人の背景

↓

見た目では、分からない！！

これから先、たくさんの人と出会う中で、

どうする？私たち！！

8 私たちのこれから。

これからあなたが出会う

たくさん「人」
や
たくさん「文化」


とどのようにつきあっていく？

9 私たちのこれから。

どうでもいい？
別に興味ない？

そんなわけない！

10





11 私たちのこれから。

そう！あの時から、六ツ川中の3年生のみんなは「日本と世界の架け橋になる！」ために、たくさんたくさん考えてきた。

「なんとかしなきゃ！！」という思いで、たくさんたくさん学ぼうとしてきた。

13 特に…

「平和と公正をすべての人に」
「貧困をなくそう」
について考えた人が多くいました。

すべての人
→ 今まで出会った人、これから出会う人
出会わない人も。

14 まずは何が必要？

相手のことを知ろうとすること！！
→自分にできることは？を考えることに繋がる

自分のことを発信！！
→行動に移していく勇気に繋がる

15 まずは何が必要？

身近な人を知ること
身近な人に伝えること



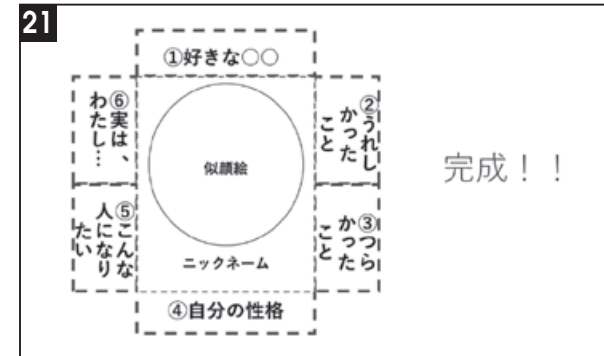
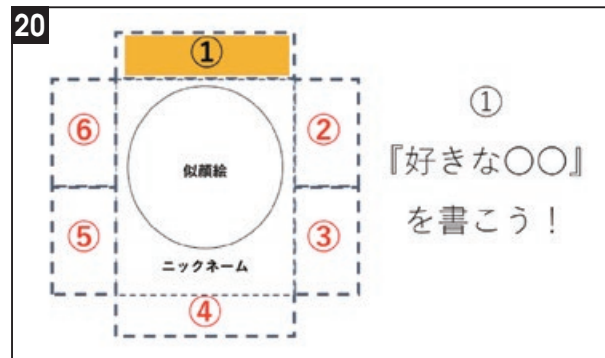
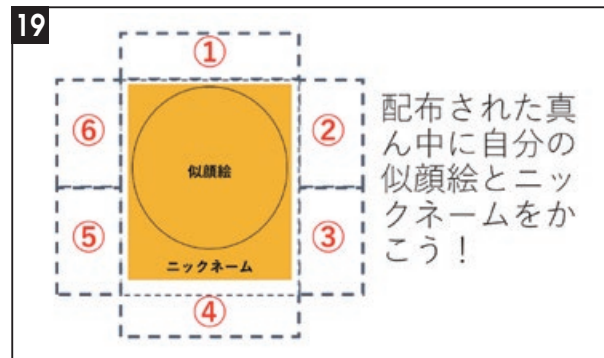
17 目の前の友だちと互いに分かり合うこと

人のため…
自分のため…

に、必ず繋がるはず！！

18 やってみよう！！

みーんなの、
オープン



22 オープンしよう！

・班長から、時計回りで**オープン**していこう！
・しっかり聴いて、**受けとめて**いこう！

23 オープンしよう！

反応

「分かる～！○○さんらしい！」
→ **グー！**

「え～！そうなの～？！意外～！！」
→ **拍手！**



27 ふりかえり


見えないことはたくさん。
知らない過去はたくさん。

みんな、ちがうよね。

28 さあ！みんなは、
すべての人のために
何をしますか？

『みんなが安心して過ごせる世の中』 にするにはどうすればいいか考えよう

【実践者】

	氏名	谷川 大介	学校名	鎌倉市立御成中学校
	担当教科等	社会	対象学年(人数)	1年 2組 (31名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2019年10月～2019年12月(3時間)		

【実践概要】

【1】実践する教科・領域

特別活動、社会

【2】単元(活動)名

多文化共生を目指して

【3】授業テーマ(タイトル)と単元目標

授業テーマ：「みんなが安心して過ごせる世の中」にするにはどうすればいいか考えよう

単元目標：「みんなが安心して過ごせる世の中」とはどのようなものか考え、その実現のために努力できる。

関連する指導要領上の目標：

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。

【4】単元の評価規準例

- ①知識及び技能 世の中には様々な背景をもった人々が存在していると理解することができる。
- ②思考力、判断力、表現力等 「みんなが安心して過ごせる世の中」とはどういう世の中か考えることができる。
- ③学びに向かう力、人間性等 「みんなが安心して過ごせる世の中」の実現に向けて主体的に追究している。

【5】単元設定の理由・単元の意義(児童/生徒観、教材観、指導観)

【単元設定の理由】

「グローバル化」が叫ばれて久しい現代であるが、今後も社会における人・物・事の交流は増え、グローバル化はより加速していくと考えられる。文化や価値観の違いがあることが当たり前の世の中になっていくともいえる。そんな社会を生き抜くために、様々な価値観を受け入れられる生徒を育成したいと考え、本単元を設定した。

【単元の意義】

生徒同士がお互いの文化や価値観の違いを知り、受け止めることができるようになる。

【生徒観】

本校は鎌倉駅の近くに位置し、土地柄、海外の人々と出会う機会の多い場所である。外国にルーツをもつ生徒も通学していて、生徒たちは日々、様々な文化や価値観にふれながら学校生活を送っている。一方で、自己肯定感がやや低く、自分らしさを表現することに苦手意識をもつ生徒もいるように感じる。また、一つの「正解」を求めてしまいがちで、それ以外のものを受け止めることが上手とはいえない状況にある。

【指導観】

ワークショップによる自己開示を通して、お互いの目に見えない背景を知るとともに、「みんなが安心して過ごせる世の中にするために」というテーマのもと、自分らしさを表現しやすい環境をつくりたいと考え、本実践を行った。

【6】単元計画(全3時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	南アメリカ州(社会科地理分野)	<ul style="list-style-type: none"> 「〇〇人」と感じる要素は人それぞれ違うことに気付く 単純に国籍や血統だけでは決められないことに気付く 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な背景をもった5名の人物を、自分が「ブラジル人らしい」と思う順番に並び替える そう思った理由を話し合う 話し合いをふまえて、「〇〇人」とは何で決まるのか自分の考えをもつ 	<ul style="list-style-type: none"> 「ブラジル人ってどんな人？」ワークシート
2	みんなが安心して過ごせる世の中にするために①(特別活動)	<ul style="list-style-type: none"> 同じものに対しても感じることや思うことは違うことに気付く 人には見える背景と見えない背景があることを体感する 	<ul style="list-style-type: none"> ねずみの串焼きや寿司の写真を見て、感じたことを話し合う 文化の違う人同士がうまく付き合っていくにはどんなことが必要か考える 人の顔・背景を一致させるワーク(ワークショップ①)を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 「みんなが安心して過ごせる世の中にするために①」ワークシート 写真 ワークショップ①のセット
3 [本時]	みんなが安心して過ごせる世の中にするために②(特別活動)	<ul style="list-style-type: none"> 見えない背景を少しずつ開示し、自他の相互理解を深める 自分らしさが出しやすくなる受け止め方を身につける 	<ul style="list-style-type: none"> 見えない背景を開示するワーク(ワークショップ②)を行う カードに自分らしさを記入する カードを使って自己開示をする いいね/わかるシールを活用し、自分らしさを出しやすい雰囲気づくりをする みんなが安心して過ごせる世の中にするにはどうすればよいか考える 	<ul style="list-style-type: none"> 「みんなが安心して過ごせる世の中にするために②」ワークシート ワークショップ②のセット

【7】本時の展開（3時間目）

本時のねらい： みんなが安心して過ごせる世の中にするにはどうすればよいか、自分の考えをもつことができる

過程時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
「導入」 7分	1.前時をふり返る 「いろいろな人について知ったけれど、一番予想外だったのは？」 2.本時の見通しをもつ ・「自分カード」を作成する ・4人班で発表し合う	・見た目だけではわからない背景があることを再確認する ・スムーズに活動できるよう見通しをもたせる ・4人班にさせる	・前時の顔写真
「展開」 30分	3.「自分カード」を作成する(中央)似顔絵 ①(上)今までで一番うれしかったこと ②(右)自分が大切にしているもの・こと ③(下)今までで一番つらかったこと ④(左)半年経った今なら言える!実は私… 4.「自分カード」を使って自己開示をする ・いいねシールとわかるシールを活用する ・話し手が安心できる受け止め方を考え、実践する	・改めて自分を形作っているものに気付かせる ・机間指導に努め、手が止まっている生徒に助言する ・「自分カード」の①～④は折り込み、話すときに1つずつ開くよう伝える ・聞く側は必ず反応し、話し手の「自分カード」にシールを貼るよう伝える	・「自分カード」 ・いいねシール ・わかるシール
「まとめ」 13分	5.ワークショップをふり返る ・ワークシートを活用する ・自己開示前の気持ち、自己開示後の気持ちを記入し、話し合う ・みんなが安心して過ごせる世の中にするにはどうすればよいか考える	・ワークシートを配付する	・ワークシート

【8】評価規準に基づく本時の評価方法

みんなが安心して過ごせる世の中にするにはどうすればよいか、自分の考えをもつことができる
(ワークシートの記述、活動中の様子)

【9】学習方法及び外部との連携

意見交流が自然なものとなるように、4月からの社会科、道徳、特別活動等の授業内で班もしくは学級全体でのシェアタイムを設けることを心がけた。また、できる限り生徒の発言を基にした、生徒同士が気付き合う授業展開を心がけた。本時では特別にそれらの時間は設けなかったが、意見を発表したり、それを受け止めたりする素地は培われていたのではないかと考える。

【10】学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

社会科の授業、総合的な学習の時間等ともリンクさせて、できるだけ多くの国際理解教育の実践を行いたいと考えている。市の社会科部会で授業実践を紹介した。今後は、よこはま国際フォーラムでの実践発表を行う予定である。

【自己評価】

【11】苦労した点

「勉強＝暗記」、「答えは誰かが教えてくれる」となりがちな本校の生徒に、「答えはたくさんある。あなたは どう思う？」という問いや課題について主体的に取り組ませることに苦労した。これは4月からの授業等での積み重ねによるところが大きいと感じた。また、生徒から多様な考えを引き出すための、揺さぶりの発問については大変苦労した。

【12】改善点

「自分カード」については、50分の中で作成と発表を同時に行うことは難しい。前時に作成しておき、それを使った自己開示とふりかえりをセットにして授業を構成すべきだった。

【13】成果が出た点

今まで以上に、クラスの生徒がお互いのちがいを受け止める姿が見られた。多様性についての寛容さが身についた。

【14】学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）

- ・世の中にはいろいろな意見をもった人がいて、それぞれ思っていることはバラバラかもしれないけれど、どんな人の意見でも受け入れてあげることがよい方法だと思った。誰かの意見に対して、賛成するだけでなく、何か意見を言ってあげるのもいいと思う。「わかる」、「いいね」を言ってあげるだけでも安心できると思った。
- ・自分では変だ、理解してもらえないと思っていても、意外と受け入れてもらえるものだと知った。また、相手も同じように不安を抱えていることも多いと思うから、私も自分からいいね、共感できる、と示すことも大切だと思った。自分の思っていることははっきり言う。でも、それだけではなく、相手の意見も聞いて考えることが大事だと思う。
- ・発表する前は、相手は私の発表を聞いてどんなことを思うのか、少し心配だった。発表したあとは、ほっとした感じ？ 恥ずかしいとか、心が痛いとかは全然なかった。逆に、少しすっきりした。
- ・顔とか声のトーンで相手が不安になることもあれば、うれしい気持ちになることもあるから、真顔ではなくニコニコしていれば、相手もニコニコできて、お互いに安心し合うことができると思う。反応してあげればいいんだとわかった。

多文化共生とわたし ～教室は世界の縮図～

【実践者】

	氏名	深澤 歩未	学校名	甲州市立塩山中学校
	担当教科等	社会	対象学年(人数)	3年 2組(31名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2019年12月4日～12月24日(3時間)		

【実践概要】

【1】実践する教科・領域

特別活動(学級活動)

【2】単元(活動)名

わたしの中の多文化と他者が持つ他文化

【3】授業テーマ(タイトル)と単元目標

授業テーマ：「多文化共生とわたし～教室は世界の縮図～」

単元目標：自分と他者の“違い”を認識し、よりよい人間関係を築いていこうとする考え方や態度を養う。

関連する指導要領上の目標：

- (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
 - ア 自他の個性の理解と慎重、よりよい人間関係の形成

【4】単元の評価規準例

- ①知識及び技能 他者と関わるときに、自分とは違う文化や考え方を持っているということを理解している。
- ②思考力、判断力、表現力等 集団で生活するにあたり、自己の特性を生かすことと同時に、他者と自分の違いを認め、互いに生かそうと考え、判断、実施している。
- ③学びに向かう力、人間性等 自分自身を顧みる経験や他者との関りを通して、人間関係を築くことの興味深さに気づき、積極的に他者と関わろうとしている。

【5】単元設定の理由・単元の意義(児童/生徒観、教材観、指導観)

【単元設定の理由】

学級・学校内にとどまらず、多様な他者がいる様々な集団での人間関係づくりを通して、平和実現の基礎としたいと考え、本題材を設定した。事前に行ったアンケート調査で、「自分にとって受け入れられないこと」に出会ったことがあると答えた生徒が28人中27人いた。そのうち、2名は状況を改善するために自ら行動し、20名は関わらないようにする、5名はどうしたらよいかかわ

【15】授業者による自由記述

初の海外が、このJICA横浜の教師海外研修でした。「多文化共生」というと難しいイメージ、海外に行く機会の多い人のものといったイメージがあるのではないのでしょうか。しかし、「文化」ではなく「価値観」ととらえると、その本質がよりつかみやすくなるのではと考えます。海外の文化や価値観と国内のそれの比較ではなく、隣にいる友人との比較でもいいと思います。様々な価値観の共生です。

「多文化共生」や「国際理解教育」の本質は、異質な他者と出会った際の自らの行動について考えることであり、まさに「みんなが安心して過ごせる世の中」を一市民として考え、作っていくことなのではないのでしょうか。「多文化共生」、「国際理解教育」は、もはや特別なものではないと思っています。

添付資料

○本時のワークシート

みんなが安心して過ごせる世の中にするために その2

1年()組()番 名前 _____

1 「自分カード」を使って自分のことを発表する前、どんな気持ちだったか書こう

2 「自分カード」を使って自分のことを発表したあと、どんな気持ちだったか書こう

3 みんなが安心して過ごせる世の中にするためには…

○自分カードの例



らずそのままにすることが多いと回答した。

数か月後に中学校卒業を控え、新しい環境での生活を始める中学3年生にとって、多様な他者の価値観を認め、寛容であることは、自らの過ごしやすさにも繋がる。そのために、まず、自分の中にある多様な文化に気づき、表現することを通してアイデンティティを形成するきっかけのひとつとしたい。さらに、それを他者と共有することで、他者には自分とは異なる背景や文化があることを確認する。自分や他者のもつ背景や文化に触れ、自分を受け止めてくれる他者の「他文化を受け入れる姿勢」が、よりよい人間関係を築くひとつの方法であると体験、認識してほしいと考え、本題材を設定した。

【児童／生徒観】

1学期に「世界がもしも100人の村だったら」「貿易ゲーム」等の参加型学習を通して世界の現状を疑似体験した。その際、多くの生徒が「世界の現状を知ることができた」「世界にはまだまだ知らないことがあるとわかった」「世界で起きていることをもっと知りたい」と、日本以外の国や生活環境、文化に興味を抱いている様子が見られた。しかし、「かわいそう」や「初めて知った」ということにとどまり、様々な文化を持った人々と共生しようという心情は育むことができていないと感じた。また、もしも他国よりも財がある国に生まれたとしたら「植民地を獲得するために他国に進出したい」等、国際平和の実現とは程遠い意見もあった。

他国を蹴落とす国際競争社会の実現ではなく、平和の実現のために、国際理解教育を通して、自文化・他文化の多様性を理解し、多文化共生の基礎を築いていきたい。

【指導観】

なぜ自分オープンという活動を行うのか、生徒が問題意識を持って臨むことができるようにしたい。そのため導入で、異文化を拒んでしまう多くの人と、これから異文化が多く入ってくる現状について理解させる。自分オープンでは我が家の〇〇など、過去や家庭のことを振り返るため、家庭の様子に応じて事前の声掛けを行い、子ども達が授業に参加しやすい雰囲気をつくる。

毎日の朝の会や帰りの会での振り返りを通して、日常に見られる様々な多文化共生の視点を共有し、各自が多文化共生を身近に感じられるようにする。本単元のまとめでは、キャッチフレーズとしての「多文化共生」として終わるのではなく、より深められるよう意見を揺さぶっていくファシリテーターとしての役割を果たしたい。

【ESDの視点】

(1) 持続可能な社会づくりの構成概念

I 多様性

自然・文化・社会・経済は、起源・性質・状態などが異なる多種多様な事物(ものごと)から成り立ち、それらの中では多種多様な現象(出来事)がおきていること。

(2) 本時で重視する ESD にかかわる能力・態度

③ 多面的、総合的に考える力(多面)

人・もの・こと・社会・自然などのつながり・かかわり・広がり(システム)を理解し、それらを多面的・多角的に考える力

⑥ つながりを尊重する態度(関連)

人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり・かかわりに関心を持ち、それらを尊重し大切にしようとする態度


【6】単元計画(全2時間)

時	場面	学習のねらい	学習活動	資料など
補	朝の会	これまでの自分の経験を振り返る。(自分の中の多文化に気が付く)	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの記入 A今の自分が大切にしているもの言葉 B塩山中学校といえば C〇〇小学校といえば D我が家の〇〇 他の人に見せないことを約束事とする。 	・事前ワークシート
1 「本時」	学級活動	自分と異なる文化を持った人々とのように共生していくのか、人との関わり方について考え、自分のできることを決定する。	<ul style="list-style-type: none"> 食文化の違いを知る 日本に移住する外国人が増えることを知る 自分オープン 自分と異なる文化と出会ったときにどうするか話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> マラウイで食べられているねずみの写真 自分オープン INPA(アマゾン国立研究所)で撮影した写真
補	帰りの会	多文化共生の視点で日常生活を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 1日の活動を多文化共生のふりかえり、気が付いた仲間の姿や気になったことを付箋1枚につき、1つメモしていく 自分の宣言した目標に対し、どのように行動できたか気が付いたことを付箋1枚につき、1つメモしていく 	・付箋
2	学級活動	多文化共生の意義を考える	<ul style="list-style-type: none"> 多文化共生をキャッチフレーズで終わらせないために、多文化共生の意味や意義は何なのか考える。 班ごとに帰りの会で書き溜めてきた付箋や本日気が付いたことを記入した付箋を用いてKJ法を行う。 	・KJ法

【7】本時の展開(1時間目)

本時のねらい： 自分と異なる文化を持った人々とのように共生していくのか、人との関わり方について考え、自分のできることを決定する。

過程時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 5分	<p>1. 1枚の写真を見た感想を挙げる。</p> <p>【生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 面白い 気持ち悪い きたない <p>この地域の子どもはすしが魚だと知って「気持ち悪い」と言ったことを伝える</p>	<ul style="list-style-type: none"> 初めて見るものや自分の当たり前の範囲を超えたもの(異文化)は、多くの人にとって受け入れがたいのだと気づかせたい。 	<p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> マラウイのねずみの串焼きの写真(朝日新聞) すしの写真

<p>2.本時の活動を知る</p>	<ul style="list-style-type: none"> 入管法により今後外国人が日本に多く移住することに気が付かせる。 	<p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 入管法 在日外国人の増加
<p>めあて 自分と異なる文化を持つ人々と、どのようにして共生したらよいか、自分のできることを決めよう！</p>		
<p>3.(1)活動①「自分オープン」</p> <ul style="list-style-type: none"> 用紙のA～Dにそれぞれ用意してきたことを記入する。 A 今の自分が大切にしているもの・言葉 B 塩山中学校といえば C ○○小学校(出身小学校)といえば D ○○家といえば 発表者はAから順にオープンしながら自分について説明する。 <p>•活動①のふりかえり それぞれの場面でどのようなことを感じたのか</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ol style="list-style-type: none"> 自分についてふりかえることができた。 <ul style="list-style-type: none"> 自分にはあまり何もない。 恥ずかしかった。 <ul style="list-style-type: none"> 普段あまりやらない活動 聞いてくれて嬉しかった。 知らないことを知ることができた。 <ul style="list-style-type: none"> 自分とは違う考えがあった 	<ul style="list-style-type: none"> 異文化が交流する「世界の縮図」がグループの中で生まれるような題を設定する。 周囲に書いた内容が見えないようにしておく。 聞き手は、発表者の背景項目ごとに「すごいね」「共感」「なるほど」「意外」「どうして」など必ず反応をすることを伝える。 <p>•事前ワークシート(左のA～Dの4項目を事前に記入させた)</p> <p>•自分オープン</p> <p>•場面を分けて考えさせる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 自分オープンを作っている時 自分をオープンにしている時 仲間の話を聞いている時 <p>•自分の中に多様な文化があることに気づかせる。また、他者にも同様に多様な文化があることに気づかせる。</p>	
<p>(2)活動②人間関係の築き方を考える「高校進学後、自分と異なる文化を持つ人々と、どのように共生したらよいか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを付箋に記入する。 班ごとにKJ法を用いて、話し合う <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の文化を伝えることが大切 自分から相手の文化を知ろうとすることが大切 受け止める側の姿勢が大切 関わらなければいい 他者には自分とは異なる背景があるから、それを知った上で関わる 	<ul style="list-style-type: none"> 共感できることがあるのは、同じ地域出身で、同じような経験を積んできたからであるということを確認する。 他者には自分と異なる「異文化」があることや、高校進学後は、共感することが少ない「異文化」と交流する可能性があることに気づかせる。 <p>•付箋一枚につき、気づいたことを1つ記入するよう机間巡視。</p>	

<p>5.ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時を振り返り、異なる文化を持つ人々と共生していくために、今日から自分ができることを決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 書くことに困っている生徒がいたときは、声をかけ、活動①のふりかえりや活動②を参考に、自分の考えを記入することができるよう促す。 指導者が本時を設定した意図を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート INPA(国立アマゾン研究所「科学の家」)の昆虫展示の写真
<p>生物の多様性に見立てたクラスの多様性</p>		

【8】評価規準に基づく本時の評価方法

【関心・意欲・態度】・仲間と積極的に関わり、活動に参加しようとしている。 [観察]

【思考・判断・実践】・異なる文化を持った人と共生するために必要なことやできることを、自分なりに挙げようとしている。 [付箋]

・仲間の意見と自分の意見を整理し、共生していく方法について、考えを深めようとしている。 [観察]

・よりよい人間関係を築くためにできることを、自分で決定しようとしている。 [記入用紙]

【9】学習方法及び外部との連携

導入で用いたねずみの話は、今回ブラジルに同行していただいたJICA横浜の中野さんが、青年海外協力隊員としてマラウイに滞在した時の経験談である。本時に繋がれると考え、活用させていただいた。

【10】学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

学校内では、ESDの指定を受ける可能性があるということで、校内研究として本時の授業を位置づけ、授業案検討も行われた。8月にはSDGsに関わる研修を行い全職員が持続可能な開発のために何が必要か考える機会が設けられた。

個人としては、社会科の教師としてJICAでの研修や開発教育協会DEARの研修に参加し、ワークショップの方法や指導者として考え方を学んでいる。また卒業生の中には、国際理解に興味を持ち、中学卒業後も研修を紹介すると、ご家族で参加してくれることもあるため、機会があれば研修の機会を広報するよう努めている。

【自己評価】

【11】苦勞した点

- 学級活動での授業実践ということ
 - ・導入ではいかに子どもたちに問題意識を持たせ、その後の展開に繋げるのか、という流れを大切にしたい。
 - ・意思決定に至るまでの流れを作ることに難しさを感じた。
 - ・その後の活動をいかに仕組み、多文化共生を自分事として落とし込むか、ということを工夫した。
- 自分オープンで4つの項目を作ること
 - ・教室を世界の縮図に見立て、グループ内で対立が起きるような課題を設定したいと考えた。
 - ・本時では、家庭→小学校→中学校→現在と、成長過程に応じて所属する社会が変化していく中で自分らしさがつくられていくという経験させたいと考え、設定した。
- 同意ではなく合意へ
 - ・授業づくりにおいて、出してもらった多くの意見を同意に導くことは難しいが、お互いの必要だと考える部分を出し合いながら、合意するという過程がまさに多文化共生だった。

【12】改善点

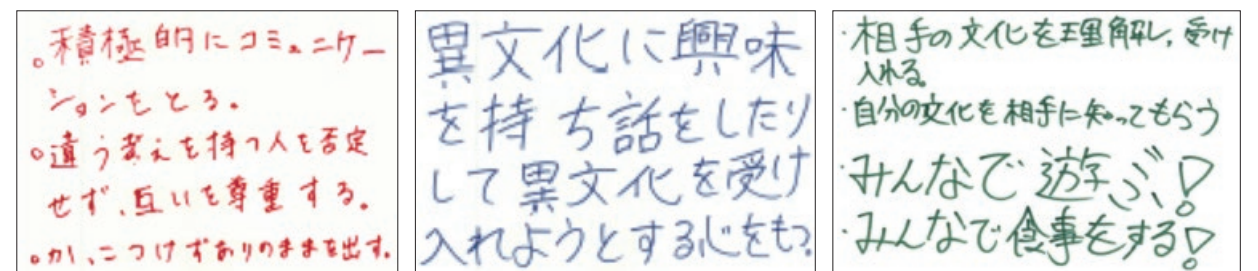
- 主体的な学びへ導くために
 - ・本時の直前に取ったアンケート（自分と異なる意見や受け入れられないものであったとき、どのように感じるか）を導入で活用することで、子ども達に迷いが生じる。それが学びの原動力になっていくので、学活では導入にアンケート結果を入れるとよい。
- 自分オープンで4つの項目
 - ・もっと異文化を感じられるものを出してもよかった。（お雑煮の具、正月に食べるもの、好きなラーメンの種類）
 - ・A～Dについて、子ども達に考えさせても良かった。
- シールの活用
 - ・受け入れることが大切、という意見を引き出すためには、リアクションだけではなくシールを貼って、楽しくコミュニケーションをとることもよい。
- 班でのKJ法
 - ・意見の分類をするためにKJ法があるのではなく、多くの意見を統合し、図解していく中で新しいものを生み出していくことが狙い。本時では、言葉の分類にとどまってしまった。
- メンバー構成
 - ・同じ小学校の子どもが集まってしまった班があった。事前に調査したい。
- 指導者が伝えたい思いを我慢することで、子ども達ももっと深く考える
 - ・確実に伝えたいと思ったあまり、丁寧に話をしてしまった。我慢するところは我慢し、子どもたち同士の意見を繋ぐファシリテーターとしての役割を担いたい。

【13】成果が出た点

- 自分オープンについて
 - ・子どもたちが自分自身の背景や成長の過程を振り返ることができた。
 - ・家族での会話のネタになり、楽しく取り組めたという生徒が多かった。
 - ・自分の家で当たり前だと思っていたことが、我が家独特のものだと気づいた。
 - ・仲間の文化を知ること、日常生活からは見られない一面や、自分の家にはない文化を知ることができた。それを楽しいと思った生徒が多かった。
 - ・縦型にすることで、過去から経験を積み重ねて、今の自分があるということが視覚的にもわかりやすかった。
 - ・掲示物にすることで、日々意識することができた。
- 多文化共生について
 - ・この視点を加えることで、物事を俯瞰して捉えられる生徒が増えた。
 - ・周囲の人の良いところを探す生徒が増えた。
 - ・相手が何を考えているのか、そしてそれはなぜか？見えないところに目を向けようとする生徒が増えた。
 - ・多文化や共生といったキーワードが共通の認識としてクラスに残った。
 - ・difference is beautifulという言葉と共に、生物多様性の写真、学級の中の多様性（子どもたちの写真）を示したことが視覚的にわかりやすく、自分事として落ちる生徒が多かった。
- 本時や単元の流れ
 - ・単元として、事前指導、本時の展開、事後指導まで計画を立てることができた。
 - ・世界のことを導入に、身近な仲間との異文化体験、高校での生活を想定した話し合い、意思決定という流れが、子どもの思考にあっていた。
 - ・帰りの会で毎日振り返りを行い、最後にもう一度多文化共生の意味を考えさせたことで、より意見が深まった。

【14】学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）

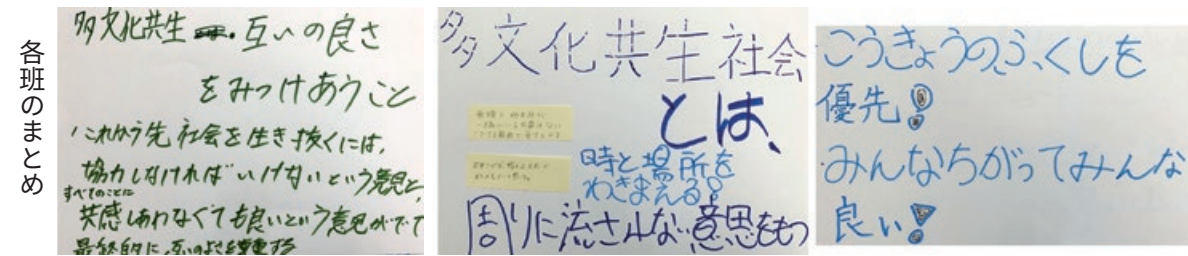
本時 「高校に進学し、自分と異なる文化を持つ人とどのように関わっていくか」
各班のまとめ



- 本時 自分オープン
- A 自分の大切にしているもの・言葉
 - B 塩山中学校といえば
 - C ○○小学校といえば
 - D 我が家の○○

まとめの1時間

キャッチフレーズとしての多文化共生ではなく、本当の意味で多文化が共生するとは？



「これからの社会に必要な」という意見もあれば、「人は人。干渉しないでくれ」「いや、共生でしょう」「すべて共感するのは違和感がある」…など、班の中で考えが一致せず、同意から合意へというプロセスを身をもって体験できた。

他文化を受け入れ尊重して関わり合うこと大切だが、間違えた文化を受け入れるか受け入れないかの判断を要すること大切。そのため、多くの人とコミュニケーションをとる。

個人で多文化共生について3年2組にちなんだ振り返り

さ … さらに深めたい

異文化を知って、自分にならしたから、もっと色々な他文化を知りたい。

様々な文化にふれてみたいし、よく理解したい。

地球上には、今のような文化があるのか？

共生していく文化としてはいかなる文化の境界線

ん … ん～面白い！

対話して話しあうことがおもしろかった。

自分とは違う文化がある。考え方も違うところがおもしろいと思った。

生きた環境によって

いろいろなことが学べる

の … 望む社会の在り方

文化の違いで起こる差別がない社会になって欲しい。

一人が他文化を受け入れて差別のない社会。思いやりや心を忘れず、様々な文化を尊重する社会。

違いを否定せず、尊重される社会

多様性の人が交わりあえる社会。人間性を尊重する社会。

に … (〇〇)な人間になりたい！

人の気持ちを理解でき、人間になりたい。

異文化を認め合いながら自分の文化を大切に、するような人間になりたい。

相手の文化を否定するのはなく、尊重し多文化共生へと導いていく

【15】授業者による自由記述

感覚から認識へ。多文化共生を具体的に日常生活に落としていくためには、その後の教師の関わり方が重要だと感じました。朝の会や帰りの会などで「多文化共生の視点を持ってみると何に気づく?」「今日のあの場面…」など、声をかけていくと、興味を持って新たな視点で日常生活を送ることができました。自分オープンの中に国際性はあまり入っていませんが、これをきっかけに子どもたちが多様な文化を認識するきっかけになればと思います。

添付資料

○ワークシート

教室から世界を学ぶ

自分と異なる文化を持つ人たちと、どのように共生したらよいか？

自分のできることを決めよう！

3年 組 氏名

(1) 自分オープンを振り返ろう！

① 「自分オープン」をつくりながら感じたことは？

② あなたが「自分オープン」を発表してみて感じたことは？

③ 友だちの「自分オープン」を聞いて、感じたことは？

(2) 今日の授業の感想
(感想や考えたことを自由に書いてください)

○本時で使用したパワーポイント

1

教室から世界を学ぶ

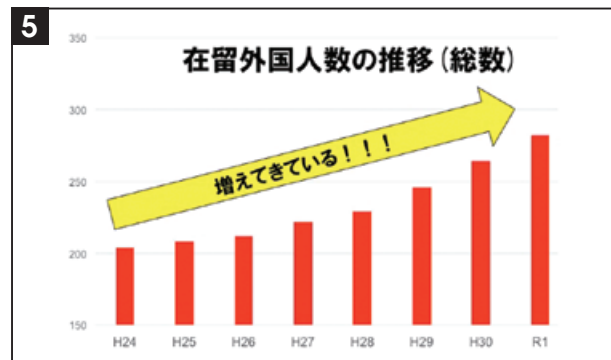




4

出入国管理法(入管法)の改正

日本の深刻な人手不足に対応するため、一定の専門性・技能を有し、即戦力となる外国人材を受け入れようとする制度。



6

教室で異文化との交流!

自分オープンをつくろう!

7

ルール
☆周りの人のものを見ない!
☆周りの人に見せない!

A
B
C
D

8

自分オープンを発表しよう!

- ・Aから順にオープンしていく。
- ・リアクションを大切に!

わかるー! 何それ? 意味わかんない!
— そうなの?? なるほど! 意外!!

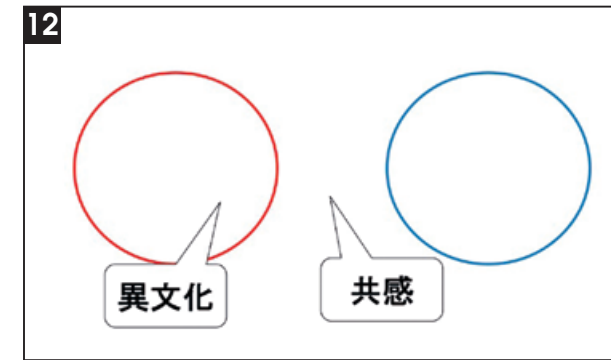
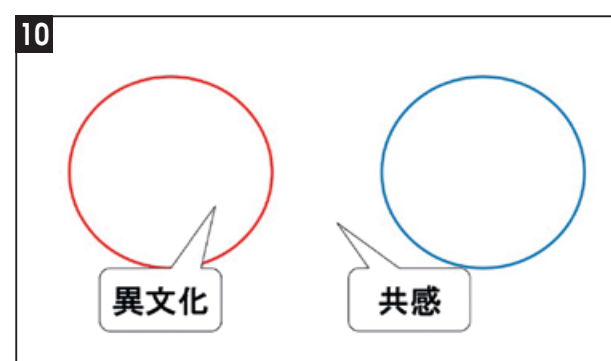
9

自分オープンのふりかえり

どんなことを感じましたか?

- ①: 自分オープンを作っているとき
- ②: 自分をオープンにしているとき
- ③: 相手の話を聞いているとき

ワークシートに記入してください。

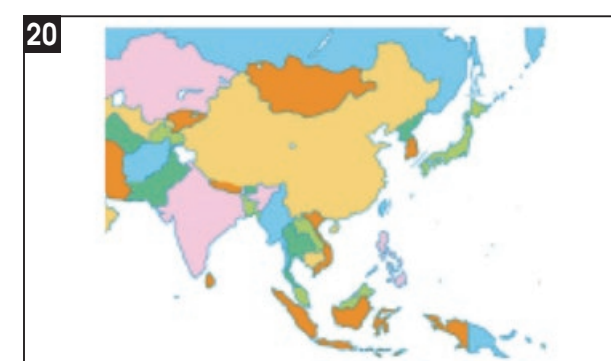
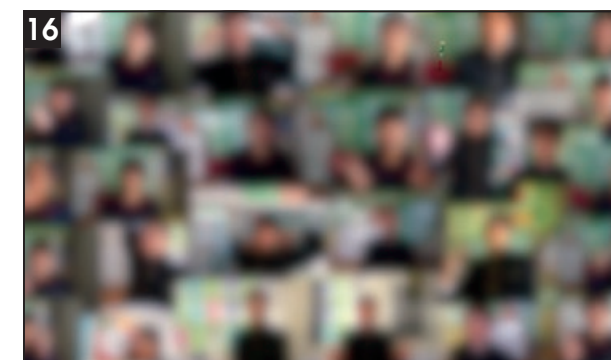


13

高校進学後、自分と異なる文化を持つ人たちと、どのように共生したらよいだろう?

14

自分と異なる文化を持つ人たちとどのように共生したらよいだろう? 自分のできることを決めよう!



21

多文化共生

自分に多文化があり相手の多文化を知ろうとすること

海外にルーツをもつ人との交流を意識して… 身近な人たちに興味を広げてみよう

【実践者】



氏名	菊川 正太	学校名	神奈川県立神奈川総合産業高等学校
担当教科等	理科・総合産業科	対象学年(人数)	国際理解入門②(30名)
実践年月日もしくは期間(時数)	2019年11月22日(金)(1時間(100分授業))		

【実践概要】

【1】実践する教科・領域

国際理解入門(総合産業科・学校設定科目)

【2】単元(活動)名

国際理解のために…身近な他文化との共生を考える

【3】授業テーマ(タイトル)と単元目標

授業テーマ：「海外にルーツをもつ人との交流を意識して…身近な人たちに興味を広げてみよう」

単元目標：見た目ではわからない背景をもっていることを理解した上で、自分を理解してもらうこと・相手を理解しようとするを念頭に、身近な人たちに自己開示できるようになる。

関連する指導要領上の目標：

学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする。

【4】単元の評価規準例

- ①関心・意欲・態度 ワークショップに意欲的に参加している。周りの人の意見や話をしっかりと聴こうとしている。
- ②思考・判断・表現 ワークショップで感じたことや考えたことを言葉で表現し伝えることができる。ワークショップで感じたことから内省し、自分の変容を言葉で表現することができる。
- ③技能 自己理解・他己理解の方法を考えることができる。周りの人を知るための方法や知る上で大切にしなければならないことを考えることができる。他人の意見や話を相手に伝えるよう反応して聴くことができる。
- ④知識・理解 人には目に見えない過去や文化などの背景があることを理解している。国際理解を学ぶ上で、身近なことから始められることを理解している。

【5】単元設定の理由・単元の意義(児童/生徒観、教材観、指導観)

【単元設定の理由】

本校は神奈川県内唯一の総合産業科の単位制専門学科の高等学校である。通称LiSA(Liberal Science&Arts Academyの略)と呼び、本校を象徴する「教養と科学と技術を学べる学校」という意味をもっている。4系1分野(工学系・情報系・環境バイオ系・科学系・リベラルアーツ分野)を柱とした様々な授業を展開している。

特徴的な授業の一つである国際理解入門では、多文化が共存し合う国際社会において、グローバル社会の一員として様々な文化的背景を持つ人々と接し理解を深めるとともに、共生していくための資質を身につけること、また、自分の考えをまとめ積極的に発信したり、他者の意見や考えにも真摯に耳を傾ける姿勢を養うことを目標として様々なワークショップに取り組んだり、外国人講師を招いての講演聴講を行っている。

今回の教師海外研修の経験を伝えること・作成したワークショップを行うことで、日常生活が国際理解・多文化共生につながることや国際理解・多文化共生は身近なところから始まることを理解してもらいたいと考え設定した。

【単元の意義】

今後、海外へ飛び出し活躍する生徒が増える。また、入管法改正に伴い海外からの労働者も増えると考えられる。自分の周りに異なる文化をもつ人が増え、そのような人々と共生していくためには、自己開示と他者理解は必須スキルである。国際的な視野で異文化を感じる前に、ワークショップを通じて自分を見つめなおし自己の文化を認識する・他者の文化を感じる体験をさせたい。

【生徒観】

本校には神奈川県内全域から入学者が集まっている。また、外国にルーツをもつ生徒や留学生も複数名在籍している。生徒たちは、自分の興味のあることに関しては意欲的ではあるものの、新しいことへの興味関心が弱く、また、一歩踏み出してみることに消極的な生徒が多い。人間関係作りにおいても消極的で自分自身を出すことにためらいを感じている生徒もいる。本授業の生徒は国際理解教育に興味をもち意欲的に取り組む生徒であるため、「国際理解は身近なところから始めていくもの」という意識を持ち、まわりの生徒たちへ波及する第一歩としたい。

【指導観】

これから近い将来、AIによりなくなる職業があるといわれている、自然環境の変化や科学技術の変化により居住環境が変わるなど、仕事や環境など様々なものが大きく変化していくと考えられている。また国連サミットで決議されたSDGsのように国際的な目標・課題が多数存在し、地球に住むものたちが豊かで幸せに暮らす未来をつくらせていくことを担う生徒たちが求められている。そのような中で「変化に対応する力」・「変化を楽しもうとする姿勢」を持ってほしい。そのためにも身近な仲間目を見て、今の自分を変える・変わろうとするきっかけとしたい。

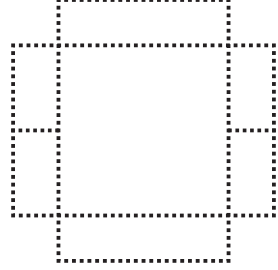
【6】単元計画 (全1時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1 〔本時〕	国際理解のために…身近な他文化との共生を考える	①人はみんな見た目ではわからない背景を持っていることを再認識する。 ②身近な他文化に触れ、自己開示と他者理解に大切なことを考える。 ③国際理解が身近なところから始まることを理解する。	WS① 「My ストーリー in Brazil」の実施と振り返り WS② 「自分オープン」の実施と振り返り 二つのワークショップの振り返り	[WS①の資料] 写真カード 情報カード①②③④ 解説カード [WS②の資料] 切り込みの入った用紙 サインペン 4色のシール [ワークシート]

【7】本時の展開

- 本時のねらい： ①人はみんな見た目ではわからない背景を持っていることを再認識する。
②身近な他文化に触れ、自己開示と他者理解に大切なことを考える。
③国際理解が身近なところから始まることを理解する。

過程時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
〔導入〕 10分	現状について知る。	教師海外研修やSDGsなどに触れながら、国際理解・多文化共生を学び行動していくために、今できることを考えさせる。 ⇒「知ろうとする・興味を持つ」こと	PPT
〔展開①〕 40分	WS①(ウォーミングアップ) 『My ストーリー in Brazil』 ワークショップにおけるグラウンドルールを確認する。 1) 封筒1から写真と情報カードを取り出し、グループで話し合いながらマッチングする。 2) 封筒2から追加カードを取り出し、先ほどの組み合わせに更にマッチングしてみる。 以後2)を繰り返す。 〔質問〕なぜその組み合わせにしたのですか? 決め手は何でしたか? 〔質問〕WS①をやってどんなことを感じましたか?	写真カードと順次開封する情報カードをマッチングするワークショップを実施させる。 (1グループ:4名程度で実施) WS中は机間指導を行い話し合いがスムーズに進まないグループのサポートを行う。 ワークシートに記入させる。 数人の生徒に発表させる。 生徒の回答から「人はそれぞれが見た目ではわからない過去や文化、価値観などを持っている」ことを共通理解として再認識させる。	[WS①の資料] 写真カード 情報カード① 情報追加カード②③④ 解説カード ワークシート

	<p>〔問題提起〕 今後外国にルーツをもつ人が増える。文化や背景の異なる人と上手に付き合っていくためにどんなこと・どんな力が必要だろうか?</p> <p>コミュニケーションが必要であることを確認させる。 コミュニケーションとは、人を理解すること・人に理解してもらうことと確認させる。 ここで、生徒たちの課題の一つ「自分を出すこと」が苦手を再確認させる。</p>		
	WS②『自分オープン』		
〔展開②〕 40分	<p>1) 切り込みの入った記入用紙に似顔絵・ニックネームと①～⑥を記入する。 ①好きな○○○(○は自由に設定) ②小さい頃の夢 ③今の私が大切にしていること ④苦手な○○○(○は自由に設定) ⑤自分の性格 ⑥人生のこだわり</p> <p>用紙の形状</p>  <p>2) 一人ずつ順番に発表する。 ・発表者は一枚ずつ切り込みをオープンにしながらか自分について説明する。 ・一つ一つの項目に対してシールを貼って反応する。 ① それ、いいね! : 黄色 ② わかる〜! 共感! : 赤色 ③ なるほど! : 青色 ④ おおお! すごい! : 緑色</p> <p>〔質問〕 どんなことを感じましたか? A: 自分オープンを作っているとき B: 自分をオープンにしているとき C: 相手の話を聞いているとき</p> <p>3) WS②をやってどんなことを感じましたか?</p>	<p>テーマにそった自分の内面を用意された紙に書き込み、みんなの前で発表するワークショップを実施する。</p> <p>WS中は机間指導を行い各項目を書けていない生徒のサポートを行う。</p> <p>教員の「自分オープン」用紙を用いて発表と聴く態度の例を示す。</p> <p>WS中は期間指導を行い生徒のサポートを行う。</p> <p>ワークシートに記入させる。 数人の生徒に発表させる。 ワークシートに記入させる。</p>	[WS②の資料] 切り込みの入った用紙 サインペン 4色のシール ワークシート
〔まとめ〕 10分	<p>現状の課題や国際理解・多文化共生に大切なことを再度考える。</p> <p>〔質問〕 今日の授業を受ける前と後で「変わったこと」「変えようと思ったこと」を教えてください。</p>	ワークシートに記入させる。	ワークシート

【8】評価規準に基づく本時の評価方法

- ①関心・意欲・態度：ワークショップへの取り組み状況や発表中の様子から評価する。
- ②思考・判断・表現：発問に対する返答やワークシートにより評価する。

【9】学習方法及び外部との連携

ワークショップを行う際は4人1グループで実施した。普段話す機会の少ない生徒同士が接するよう、1年生2名+2 or 3年生2名でグループを組んだ。また、留学生が含まれるグループには英語教員を、3人グループにはもう一名教員を配置して人数を合わせて実施した。接する機会の少ない生徒同士でワークに取り組むことで新たな気付きを得たり、ワークショップを通して自分を伝えることの楽しさを感じたと振り返る生徒も多数存在し、実りある授業となった。

【10】学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

- ・国際理解の授業
- ・LHRにおける学年・学級でのワークショップ実施
- ・教師海外研修の校内報告会実施(予定)

【自己評価】

【11】苦勞した点

「国際理解が身近なところから始められること」「日常生活が国際理解につながっていること」を生徒に落とし込むことが最も難しい点であった。今回実施したワークショップはともにこの点を感じさせることのできる教材であると考えているが、授業中に教師が伝えることと生徒に気づかせることのバランスに苦勞した。

【12】改善点

いかにして生徒が気づきを得るか、ワークから私たちの伝えたいことを感じ取るか、感じ取ったことを引き出し表現させるかを考えると、発問一つ一つを常に吟味していくことが大切であると感じた。また、国際理解を自分事化させるための発問は、改善が必要だと考える。WS①のMyストーリーに関しては、今回はブラジルで出会った人を題材に作成したが、今後出会う人々についてカードを増やしていくことで、より背景の異なる人や異文化を感じるワークに改善できると考える。またWS②の自分オープンでは、反応を示す際のシールの数や反応の種類を校種に合わせて増減させると良いと感じた。できるだけテンポよくワークを進めることで、感じたことや考えたことの共有の時間を長く作り出すことができるため、今後実践を続ける中で時間配分についても考えていきたいと思う。

【13】成果が出た点

WS①のMyストーリーでは、ワークの目的の通り「みんな見た目ではわからない背景をもって」感じてくれたようである。また、生徒たちはコロニア語や農園での作物など土地に根付く文化にも興味をもってくれた。異文化を知る楽しさを感じるきっかけになったと思う。

WS②の自分オープンでは、身近にある異文化を知ることや共生するために必要なことを考えるきっかけになったと感じた。また、まわりの仲間たちの文化に興味をもつと共に、自分自身の文化について考える機会になっていた。オープンするときの不安とオープンしたときの仲間の反応に対する安心感で自己肯定観の醸成にもなっていた。

【14】学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）

実践授業で使用したワークシートより（生徒のコメント抜粋）

- WS①「Myストーリー in Brazil」を行って感じたこと
 - ・人それぞれにいろんな背景があるから、それを受け止められるように生活したい。
 - ・単純な情報だけではその人を判断できない＝知れないのかなと感じました。
 - ・人は見た目だけでないことやグループに人たちの交流の楽しさを感じました。
 - ・様々な意見を聞き、ここでどのようなことを考えているのかを知り、意見の多様性を感じた。
- WS②「自分オープン」をおこなって
 - ◎作成中
 - ・共感してくれるか不安だった。
 - ・変なふうにみられないか不安だった。
 - ・自分のことを文字にすると、なんかいいなと思いました。
 - ・意外と自分のことをしらなかつたり、無意識にやっていたことがあって自分に自分を紹介された感覚になった。
 - ◎発表中
 - ・何か反応があると少し心が楽になるし、嬉しい気持ちにもなる。また話す気にもなる。
 - ・大丈夫かなと不安でしたが、班の人が反応してくれたので良かったです。
 - ・シールが貼られるとプラスの気持ちになる気がした。自分をさらすとスッキリした。
 - ・自分の志向を伝えるのは恥ずかしかったけど反応があると嬉しく思った。
 - ◎発表を聴いているとき
 - ・一人ひとり違うこだわりとかもっているから自分と他の人との違いを比較することも大事ななと思った。
 - ・班の人が同じような質問に答えているのに全然違う答えで面白かったです。また、素敵な発表でよかったなと思いました。
 - ・他人をすると自然と気持ちが軽くなった。
 - ・いろいろな人の自己紹介は楽しくて刺激的だった。
 - ◎「自分オープン」を行って感じたこと。
 - ・発表しているときに反応をいろいろしてくれて発表しやすかった。また、発表し終わった後にこれは具体的にはとか更に聞かれてよかった。コミュニケーションをとるにはこういうことかが必要だなと思った。
 - ・話している人に対して何か反応したりすることが大事だなと思った。誰かに共感とかもらえると嬉しいし、気持ちも楽になる。

- ・人それぞれ全然違う感じ方を思っているんだなと思いました。また、互いのことを知ることで新たな発見があったので面白かったなと思いました。
- ・改めて自分がどんな人だったかを見直すいい機会になったし、他の人のことも聞いて新たな気づきがあった。
- 授業における変容
 - ・人それぞれにいろんな背景があるから、それを受け止められるように生活したい。
 - ・他人を知ることが第一優先になった。外国の人とでも活かしていこうと思った。
 - ・他人の好きなことにも興味を持てば知識の幅が広がると感じた。
 - ・人のことをもっと知りたいと思うようになった。もっと素直に自分を出していこうと思った。

【15】授業者による自由記述

実践授業での生徒の表情や授業後の感想・コメントを見て生徒の変容に驚き、感動した。国際理解教育の一環として行ったワークショップが日常生活にまで影響を与えたことはとても嬉しく思う。今後も本ワークショップを改善し、実践し続けたい。また、本研修をきっかけとし、地球の未来を担う子どもたちに気づきを与え考えさせることのできるワーク作りの楽しさも知ることができた。世界のみなが豊かに暮らすことのできる環境づくりのために今何ができるのかを同じ志をもつ先生方や目の前の子どもたちと考えていきたいと思う。

参考資料

- SDGs 報告2019：国連広報センター
https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

添付資料

- 授業で使ったパワーポイント



なぜ研修に行ったのか…

- ◎ 多文化共生と移民
 - ・海外に興味がある(あった)
 - ・世界の人々と話すことは楽しい・刺激的
- ◎ 今後の日本
 - ・入管法改正
 - ・2020年東京オリンピック
- ◎ LiSAの現状と課題
 - ・同じ趣味でのグループ(ゲーム・アニメなど)
 - ・1人でいたい
 - ・友達作りが苦手

5 将来身につけてほしい力(感じる課題)

- ◎ 海外・異文化に興味をもつ
- ◎ 新しいことに挑戦する
- ◎ 自分を変える 変わろうとする

変化に対応する力

6 「SDGs」って知ってますか

SDGsとは

Sustainable (持続可能な)
Development (開発)
Goals (目標) の略称です。

7 「SDGs」って知ってますか

2015年9月
国連サミットで全会一致で採択
 目的
持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現
 そのための
2030年までを期限とする
17の大きな目標
 達成するための具体的な
169のターゲットで構成



9 たとえば…世界には

6 安全な水とトイレを世界中に 衛生的なトイレを使えない人が **約45億人**
 ・安全安価な水を全ての人に
 ・安全、衛生的なトイレを普及し 野外排泄をゼロに など

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 電気を使えない人が **約8億人**
 ・生活に必要なエネルギーを全ての人に
 ・再生可能エネルギー増
 ・現エネルギーの効率化 など

10 高校卒業後の上級学校でも・・・

大学もSDGsを意識した取組を行っている。

例) 東京大学・宇都宮大学・早稲田大学
 上智大学・明治大学・法政大学
 神奈川大学・創価大学・拓殖大学
 関東学院大学 などなど

目標達成のために、自分に何ができるのかを 考え・行動することが必要

11 どこから手をつける?

身近に感じない、世界の現状も知らないのに、何を考え、どう行動すればいいの?

みなさんはまだ高校という枠の中。この先、上級学校や社会人として多くの人や仕事と関わる中で知識・考えは広がる。そのとき大切なのは **新しいことを知ろうとする ことに興味をもつ**

12 ワーク① (ウォーミングアップ) 『Myストーリー in Brazil』

注意：今からワークを行います。グループで話し合いながら行っていただきますが、ネガティブな発言はしないこと!

1) 袋1からカードを取り出します。
写真 と **情報カード** をマッチングしてみましょう。

質問
 なぜその組み合わせにしたのですか?

13 ワーク① (ウォーミングアップ)
『Myストーリー in Brazil』

注意: 今からワークを行います。グループで話し合いながら行ってもらいますが、**ネガティブな発言はしないこと!**

2) 袋2から追加のカードを取り出します。**追加カードを先ほどの組み合わせにさらにマッチングしてみましょう。**

3) 袋3から追加のカードを取り出します。**追加カードを先ほどの組み合わせにさらにマッチングしてみましょう。**

※追加カードは色毎にセットになっています。
※途中で組み合わせを変更してもOKです。

14 ワーク① (ウォーミングアップ)
『Myストーリー in Brazil』

注意: 今からワークを行います。グループで話し合いながら行ってもらいますが、**ネガティブな発言はしないこと!**

4) 袋4から追加のカードを取り出します。**追加カードを先ほどの組み合わせにさらにマッチングしてみましょう。**

※追加カードは色毎にセットになっています。
※途中で組み合わせを変更してもOKです。

質問
1) **組み合わせの決め手は何でしたか?**
ワークシートに記入してください。

15 ワーク① (ウォーミングアップ)
『Myストーリー in Brazil』

答え合わせ
袋5に「答え」となる解説カードが入っています。
各グループで自分たちの結果と比べてみましょう。

質問
2) **どんなことを感じましたか?**
ワークシートに記入してください。

16 ワーク① (ウォーミングアップ)
『Myストーリー in Brazil』

**人はみんなそれぞれに
見た目にはわからない
過去や文化や価値観
を持っている**

17 入管法改正について

● 出入国管理・難民認定法
入国・出国、外国人の在留資格、不法入国などに関する法律で、略して「入管法」と呼ばれます。

● なぜ改正されたか
生産年齢人口(15歳から64歳の年齢層)の減少
※この25年ほどで1000万人もの人口が減少に至る
特に「建設業」「サービス業」「製造業」
⇒ 労働人口の補填が強い
・ 地方での人手不足の解消

**今後ますます、
外国にルーツをもつ人が増える**

18 コミュニケーション能力

**人を理解すること
人に理解してもらうこと**

19 コミュニケーションをとる

世界中の人々と対等に
コミュニケーションできますか?

言語・文化・宗教・価値観等
背景が違うことがたくさん!

そこで、菊川から1つの提案
**世界に目を向ける前に
自分の周りの人たちに
もう少し興味を広げてみよう**

20 ワーク②
『自分オープン』

注意: 今からワークを行います。配付された紙にいろいろと書き込んでいきますが、できるだけ周りに見えないように書いてください。

1) 配付された紙の**センター**に自分の似顔絵を書いてみよう。

2) 似顔絵の下に(呼ばれている・呼ばれたい)ニックネームを書いてください。

21 ワーク②
『自分オープン』

注意: 配付された紙にいろいろと書き込んでいきますが、できるだけ周りに見えないように書いてください。書き込んだら、裏側に折り込んでください。

3) ①に「好きな○○○」を書いてください。

4) ②に「小さい頃の夢」を書いてください。

5) ③に「今の私が大切にしていること」を書いてください。

22 ワーク②
『自分オープン』

注意: 配付された紙にいろいろと書き込んでいきますが、できるだけ周りに見えないように書いてください。書き込んだら、裏側に折り込んでください。

6) ④に「苦手の○○○」を書いてください。

7) ⑤に「自分の性格」を書いてください。

8) ⑥に「人生のこだわり」を書いてください。

23 ワーク②
『自分オープン』

3) ①「好きな○○○」

4) ②「小さい頃の夢」

5) ③「今の私が大切にしていること」

6) ④「苦手の○○○」

7) ⑤「自分の性格」

8) ⑥「人生のこだわり」

24 ワーク②
『自分オープン』

順番にオープンしていきます。
ルール メンバーがオープンしてくれた内容に反応しよう!
次の①~④に合わせてシールを貼ってあげよう!

① それ、いいね! 黄色 ●

② わかる~! 共感! 赤色 ●

③ なるほど! 納得! 青色 ●

④ おおお! すごい! 緑色 ●

25 ワーク②
『自分オープン』

<振り返り>
どんなことを感じた?

A: 自分オープンを作っているとき

B: 自分をオープンにしているとき

C: 相手の話を聞いているとき

ワークシートに記入してください。

26 ワーク②
『自分オープン』

<振り返り>
どんなことを感じた?

A: 自分オープンを作っているとき

B: 自分をオープンにしているとき

C: 相手の話を聞いているとき

ワークシートに記入してください。

27 「自分オープン」を実施して

身近にある**異文化**(それぞれの文化・背景)を感じられましたか?

**海外にルーツをもつ人も
同じ学校の仲間も
それぞれが
個人の文化を持っている**

28 将来身につけてほしい力(感じる課題)

◎ 海外・異文化に興味をもつ

◎ 新しいことに挑戦する

◎ 自分を変える
変わろうとする

変化に対応する力

29 まとめ

人はいきなり変わるの**難しい・ストレス**

でも
**自分から進んで行動しないと
変わらない・変わらない**

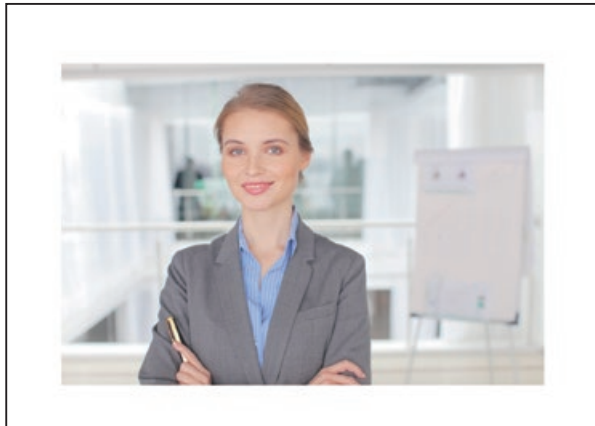
**国際理解や人との関わり
身近なところから
はじめてみませんか?**

30 最後に...

今日の授業を受ける前と後で
「変わったこと」
「変えようと思ったこと」
を教えてください。

ワークシートに記入してください。

○写真カード



○情報カード

カロラインさん
 両親の国籍 父：ブラジル
 母：日本
 生まれ 日本
 育ち 12歳まで日本
 その後ブラジル

タイスさん
 両親の国籍 父：ブラジル
 母：ブラジル
 生まれ ブラジル
 育ち 7歳～17歳が日本
 その後ブラジル

ルイスさん
 両親の国籍 父：日本
 母：日本
 生まれ ブラジル
 育ち ブラジル

オサムさん
 両親の国籍 父：日本
 母：日本
 生まれ 日本
 育ち 23才まで日本

○情報カード

言語	スポーツ
ポルトガル語 日本語	卓球

仕事	ルイ
通訳	

言語	スポーツ
ポルトガル語 日本語	卓球

仕事	ルイ
通訳	

言語	スポーツ
コロンビア語 (日本語も使える)	和太鼓

仕事	ルイ
農園経営	

言語	スポーツ
コロンビア語 (日本語も使える)	和太鼓

仕事	ルイ
農園経営	

○解説カード

名 前：カロラインさん
 生まれ：日本
 育 ち：12歳まで日本
 <カロラインさんの話>
 私の父はブラジル人で母は日本人です。私は日本で生まれ、12歳まで日本で過ごし、日本の学校に通っていました。その後、父とブラジルに戻りました。日本語もポルトガル語も話することができるので通訳としてブラジルで働いています。今は私以外の家族は日本に居ますが、私は明るくていつも陽気なブラジル人の性格が大好きで、ブラジルで1人暮らしをしています。



名 前：タイスさん
 生まれ：ブラジル
 育 ち：7～17歳まで日本
 <タイスさんの話>
 私の両親はブラジル人です。私もブラジルで生まれました。7歳のときに父の仕事の都合で日本に行き、小学校2年生から高校2年生まで日本の学校に通いました。日本の学校で一番驚いたのは、生徒が掃除をすることです。ブラジルでは、清掃員さんが掃除をします。現在はブラジルで生活しています。私は日本語もポルトガル語も話することができますし、日本もブラジルも好きです。



名 前：ルイスさん
 生まれ：ブラジル
 育 ち：ブラジル
 <ルイスさんの話>
 私の両親は日本で生まれ育ちました。それから、ブラジルに移住し、私を生みました。私は、ブラジルで生活し、両親による熱心な教育で、ポルトガル語と日本語を話すことができるようになりました。現在はブラジルで通訳の仕事をしています。20代の頃、職場に強盗が入り、命を狙われたことがあります。銃を突きつけられたときは、「終わった。」という気持ちになりました。



名 前：オサムさん
 生まれ：日本
 育 ち：日本
 <オサムさんの話>
 私は日本で生まれ育ちましたが、日本で仕事を探すことが困難になり、23歳のときに一人でブラジルへ移住しました。ブラジルで日本人女性と結婚し、今では孫もいます。村では主に「コロンビア語」を使っています。日本語を話すことが減ってきたため孫たちは日本語が苦手です。仕事は農園の経営で、最近では「びわ」の栽培に力を入れています。8月には村全体で「びわ祭り」を開催しています。



2019年度 国際理解入門
年次 組 番 氏名 ()

●ワーク① (ウォーミングアップ) ～My ストーリー in Brazil～

1) なぜその組み合わせにしたのですか? 決め手は?

2) ワークをおこなって感じたことを教えてください

●ワーク② ～自分オープン～

1) A: どんなことを感じましたか?

B: どんなことを感じましたか?

C: どんなことを感じましたか?

2) ワーク②をおこなって感じたことを教えてください

●今日の授業を受ける前と後で「変わったこと」「変えようと思ったこと」を教えてください。

変わったこと

変えようと思ったこと

自己開示(自分オープン)

【実践者】



氏名	田中 豪	学校名	神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校
担当教科等	理科	対象学年(人数)	2年生(39名)
実践年月日もしくは期間(時数)	2019年11月(3時間)		

【実践概要】

【1】実践する教科・領域

総合的な学習の時間

【2】単元(活動)名

多文化共生 / 他者理解

【3】授業テーマ(タイトル)と単元目標

授業テーマ: 「自己開示(自分オープン)」

単元目標: ・多文化共生について理解する。
・他者の考え、背景、文化を理解し受け入れ、違いを尊重する。

関連する学習指導要領上の目標:

主体的・協働的に取り組むとともに、互いの良さを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

【4】単元の評価規準例

- ①関心・意欲・態度 ワークショップに意欲的に参加している。
- ②思考・判断・表現 ワークショップで感じたことを言葉で表現し伝えることができる。
- ③技能 多文化共生についてコンピュータ等で情報を集め、自分自身の文化と比較、検討、考察することができる。
- ④知識・理解 他者には目に見えない文化が存在していることを理解している。
自身にも他者には見えていない文化が存在していることを理解している。

【5】単元設定の理由・単元の意義(児童/生徒観、教材観、指導観)

【単元設定の理由】

入管法改正に伴い、異文化に触れあう機会がより一層増えていくことが予想される中、国際理解教育や多文化共生について学ぶことはとても大切である。一見テーマが壮大すぎるようにも思えるが、実はすべては身近な人の中にある文化(他者の文化)から始まっていることを理解してもら

いたいと考え、設定した。

【単元の意義】

他国や他者の文化の「違い」を自身のものとは違うから受け入れられない現状があり、その現状を「違い」を尊重する姿勢へと変化させていく。

【生徒観】

本校の生徒は友人関係が希薄で、他者に無関心な生徒も多く在籍している。SNS上で自己を開示したり、他者の考えに意見を出したりすることはできても、実生活では苦手な生徒が多い。また、「違い」が原因で衝突が起きることもある。

【指導観】

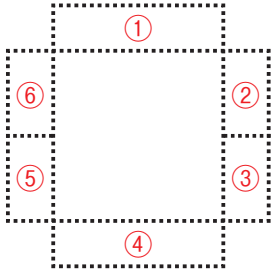
他者の背景・文化を知り、互いの良さを認識し、自分自身に新たな価値観を創造し、よりよい人間関係・社会を実現していこうとする態度を養っていける一つのきっかけづくりになればよい。

【6】単元計画（全3時間）

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	異文化理解(国)	日本の文化とブラジルの文化の違いを知り、自身のあたりまえはあたりまえではないことに気づかせる。	「タナカの学び」 日本の文化とブラジルの文化についてそれぞれ10枚ずつの計20枚のカードを配り、そこに書いてあることが日本・ブラジルどちらのことを指しているか班で仕分けするワークショップを行う。このワークショップを通して、異文化を理解する。 (例) 学校が終わったら教室を掃除します。(日本) 学校の掃除は係の人がします。(ブラジル)	日本・ブラジル文化カード(20枚)
2	異文化理解(人)	人には目に見えない背景や文化があることに気づかせる。	「マッチング」 ブラジルで出会った人々の写真と情報カードを班で意見を交換しながら、マッチングさせる。その中で、表にでている情報だけではわからない背景や文化があることに気づく。	写真カード(4枚) 情報カード(4枚)
3 [本時]	自己開示 他者文化理解	互いの違いを認め、理解しながら他者を尊重する態度を育てる。	「自分オープン」 自身の文化についてテーマに沿ってオープンカードに書き込み、班員の前で発表する。聞き手はシールを用いて反応する。 このワークショップを通して、異文化理解・多文化共生のはじまりは身近な人の文化を理解することや自身の文化を発信することからはじまることに気づく。	PPT オープンカード 振り返りシート

【7】本時の展開（3時間目）

本時のねらい： 異文化理解・多文化共生のはじまりは身近な人の文化を理解することや自身の文化を発信することからはじまることに気づかせる。

過程時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
[導入] 10分	「ユネスコ憲章前文」 ⇒平和実現には異文化理解が必要であることを学ぶ。 前回の振り返り 「タナカの学び」の振り返り ⇒異文化理解(国)について再確認する。 「マッチング」の振り返り ⇒異文化理解(人)について再確認する。		パワーポイント [前回のワークショップで生徒が書いた振り返りを映す]
[展開] 30分	「自分オープン」実施(4人班で実施) オープンカードの形状(下図)  1) オープンカードに似顔絵・ニックネームを記入する。 ①から⑥を記入する。 ①自分の好きな〇〇〇 ②今までで一番うれしかったこと ③今までで一番の失敗 ④人生のこだわり ⑤自分の性格をひとことで ⑥実は私... 2) 一人ずつ発表させる。 発表者は一枚ずつ内容をオープンにしながら自身について説明する。 他の班員は各項目に対してシールで反応する。 [1] それ、いいね! [2] わかる! 共感!	記入内容は他者に極力見えないようにするように指示する。 グラウンドルールを確認する。 机間指導しながら記入内容を確認する。 発表・反応できているか机間指導する。	オープンカード
[まとめ] 10分	振り返りシートを記入する。 [質問] どんなことを感じましたか。 A: 自分オープンを作っているとき。 B: 自分をオープンにしているとき。 C: 相手の話を聞いているとき。 [質問] 今日の授業を受ける前と後で「変わったこと」「変えようと思ったこと」を教えてください。	振り返りシートが記入されているか確認する。	振り返りシート

【8】評価規準に基づく本時の評価方法

【関心・意欲・態度】ワークショップに意欲的に参加している。

【思考・判断・表現】ワークショップで感じたことを言葉で表現し伝えることができる。

【9】学習方法及び外部との連携

外部との連携は特になし。

学習者同士の関係性として3つ重視していることがある。1つ目は班員は4人で構成している。理由は3人では知り得る情報が少ないし、5人ではシールを貼って反応する際に距離が遠いためである。次に2つ目は班員がなるべく、いつも一緒に行動をしていないメンバーで組んでいる。最後に3つ目は授業の最初に「チェックイン」を行うことにより、学習者同士の緊張をほぐし、より自己開示をしやすい環境を作ったことである。

【10】学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

学校外で国際理解教育・授業実践を広める取組は今のところ行っていない。学校内では1月から3月の間に1、2学年の19クラス（今回実施したクラスを除く1、2学年全クラス）で同様の授業を行う予定である。そのため、学年会を通じて教員にもねらいや注意点を共有していく。

その他、総合的な学習の時間を用いてSDGsを絡めながら国際理解教育を進めている。

【自己評価】

【11】苦勞した点

苦勞した点は大きく分けて3つある。

1. オープンカードの項目によっては、悩んで書けないまま次の項目に進んでしまう者が数名いたこと。
2. PCのタイマーが作動しなかったこと。
3. 振り返りの時間があまり確保できなかったこと。

【12】改善点

上記の苦勞した点を以下のように改善していきたい。

1. 教員側がより具体的な例示を行うことや可能な限り教員を複数配置して授業を行う。
2. PCのフリーズを考え、ストップウォッチまたはキッチンタイマーを使用する。
3. 6つの項目を精選して4つにする。

【13】成果が出た点

成果が出た点は大きく分けて3つある。

1. 普段は他者とコミュニケーションをとらない生徒が、進んでワークショップに参加して、自己開示を行っていた。

2. 今までずっと隠していた「実は」を打ち明けている生徒がいたこと。
3. 「チェックイン」の実施や「グラウンドルール」の提示により安心できる場を作れたこと。

【14】学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）

このワークショップを通して、一定の成果があったものと考えられる。

生徒の振り返りシートより

他者に対する気づき

- ・自分の価値観と他者の価値観は違うことを再認識した。
- ・他者の価値観をもっと尊重したい。
- ・こんな人もいるのだと思って、良い意味で人に対する接し方が変わった。
- ・「違い」を知るのがおもしろかった。

自身に対する気づき

- ・自分の意見・価値観を大事にしたい。
- ・自分を出すことで、相手のコミュニケーションがとりやすくなる。
- ・自分と向き合い、自分の殻を1枚破ることができた。

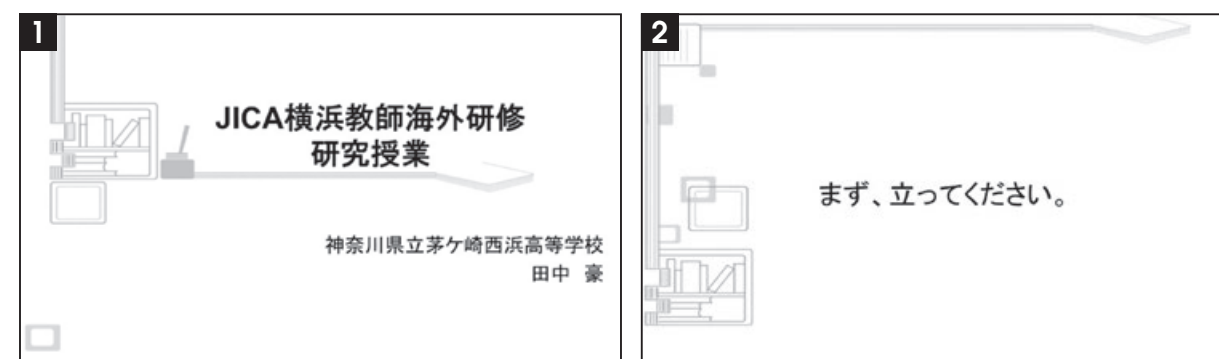
【15】授業者による自由記述

本ワークショップは様々な校種で実施できる汎用性が高いものとなっている。校種に応じて質問数や質問内容を変えることによって、実施可能である。

最近の児童・生徒はスマートフォンやゲームに依存していて、他者との交流をもたないようにしている者もいるように見受けられるが、自己開示／他者理解を1時間で思い自分の殻に閉じこもることなく、「他者の考え、背景、文化を理解し受け入れ、違いを尊重する。」態度を養うことができると思う。上記の考えが多文化共生の第一歩になると思う。

添付資料

○授業で使ったパワーポイント



3 チェックイン

- 今の気分を点数(5点満点)で表してみんなと共有しよう!
- (例)今の気分は5点です。理由は〇〇だからです。(聞いてるひとは拍手!!)

★右前に座っている人から時計周りに行きましょう! 班員全員が終わったら着席!

4 JICA横浜 教師海外研修2019
この夏、ブラジルに行ってきました!

5 今回の研修のテーマ

多文化共生と移民

⇒今回の研修地であるブラジルは多文化社会と呼ばれ、様々なルーツを有する人々が暮らしています。今回のワークショップは、この多文化社会からブラジルへの集団海外移住の歴史や、25万人もの日本人が移住していること、人ほどいると言われていること、また、日本国内にも約17万人の日系ブラジル人が居住しています。

(JICA横浜HPより)

6 ここで質問

- 1914年 第一次世界大戦勃発
- 1939年 第二次世界大戦勃発

この2つの年から連想することは?

7 ユネスコ憲章前文

- 戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。
- 相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信を起した共通の原因であり、この疑惑と不信の為に、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった。

⇒平和実現に異文化理解が必要

8 WS①「タナカの学び」振り返り

WS①は大きく捉えた(国)異文化理解

9

身近に感じないし、世界の現状も知らないのに、何を考え、どう行動すればいいの?

多文化共生とは多くの国の文化が共生していくってこと? 難しい... 外国にも行ったことないし。

10 WS②「マッチング」振り返り

WS②は小さく捉えた(人)異文化理解

11 WS②「マッチング」振り返り

WS②は小さく捉えた(人)異文化理解

12

他国の人々をどう理解したとしても自分はこの先どうしたらいいの?

多文化共生の第一歩は身近なひとの中にある文化や価値観をしっかりと知ること・自らの文化や価値観を発信することが大切

13 WS③ 自分オープン

- 注意: 今からワークを行います。配付された紙にいろいろ書き込んでいきますが、できるだけ周りから見えないように書いてください。

14 グラウンドルール

- 他者の文化・価値観を否定しない。⇒「違い」を知ることを楽しむ。
- 全員がしっかり話す(しっかり聞く)。
- 振り返りを大切にします。

(なんでもうちらだけ残されてるの?と思わずに)楽しむ!

15

配布された紙の中央に自分の似顔絵と呼ばれる(呼ばれている)ニックネームをかく。

16

①に「自分の好きな〇〇〇」
(例)食べ物・芸能人など なんでもok!

17 パンケーキ

②に「今までで一番うれしかったこと」

18 パンケーキ

③に「今までで一番の失敗」

19 パンケーキ

④に「人生のこだわり」

20 パンケーキ

⑤に「自分の性格をひとことで」

21 パンケーキ

⑥に「実は私...」

22 ルール説明

- 左前の人から時計周りに発表する。(1分40秒)
- ①から⑥まで順番にオープンしていく。
- 各項目ごとにオープンされたら聞いている人は反応するシールを貼る。

[1]それ、いいね! ⇒ 青色 ●
[2]わかる! 共感! ⇒ 赤色 ●

23 振り返り

どんなことを感じた？

A: 自分オープンを作っているとき

B: 自分をオープンにしているとき

C: 相手の話を聞いているとき

ワークシートに記入してください。

24 最後に…

今日の授業を受ける前と後で
「変わったこと」
「変えようと思ったこと」
を教えてください。

ワークシートに記入してください。

25 最後に…②

今日の授業を受ける前と後で
「変わったこと」
「変えようと思ったこと」
を共有してみましょう。

○ワークシート

令和元年 11 月 27 日実施

ワークショップ③ 「自分オープン」 振り返りシート

【質問 1】 以下の作業をしているときに、どんなことを感じましたか。

A: 自分オープンを作っているとき。

B: 自分をオープンしているとき。

C: 相手の話を聞いているとき。

【質問 2】 今日の授業を受ける前と後で「変わったこと」「変えようと思ったこと」を教えてください。

「変わったこと」

「変えようと思ったこと」

2年2組 () 番 ()



西部アマゾン日伯協会盆踊りにて [撮影：2019年度教師海外研修同行者]



独立行政法人国際協力機構
横浜センター（JICA横浜）

〒231-0001 横浜市中区新港2-3-1

Tel : 045-663-3220 (直通)

Fax : 045-663-3265

E-mail : yictpp@jica.go.jp

<https://www.jica.go.jp/yokohama/>



